

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	森 篤史
主な担当科目	イヤートレーニング,ポピュラー作曲・編曲法①,コードプロGRESSION(ベーシック),ポピュラー作曲・編曲法②,コードプロGRESSION(アドバンス),メディア創作基礎Ⅰ,メディア創作基礎Ⅱ,メディア創作演習③,メディア創作演習④,鍵盤ソルフェージュ①,聴音・視唱ソルフェージュ②,サウンドクリエイト①
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	コロナ禍もある程度落ち着きを見せ始めたところで、改めて対面授業の重要性を再認識するべく、より丁寧な各学生への個別ケアを目標とし、過去数年間の取り返しを進める。一方、コロナ禍で得たペーパーレス化や課題ファイル共有など、デジタルの強みを生かした授業運営を継続、効率化を目指す。ライブ授業のオンライン配信を学生自身が行えるよう、ノウハウの継承を行う。ソルフェージュにおいては新たに作成した電子テキストの模範解答を作成し授業内で使用開始する。
2022年の教育に関する自己評価	目標はほぼ達成できた。特に電子テキストの模範解答作成は継続して行い、授業内で配布することができ、学生から好評であった。ライブ授業のオンライン配信は学生が積極的に設営、配信を行えるようになってきた。授業内資料のペーパーレス化は新入生からiPadを配布したことから、ほぼ全ての学生に対して実施できた。
2022年のFD活動に関する自己評価	全てのFD研修会に出席している。
授業改善のために取り入れた研修内容	ソルフェージュ学内組織では積極的なiPadの授業内での使用法についてプレゼンを行い、様々な教員とノウハウを共有できた。また、ジャズ・ポピュラー音楽の学内組織においてはコロナ禍における指導法の共有と、多くの非常勤講師の要望を反映できるよう尽力している。

科目名－クラス名

イヤートレーニング

A

曜日時限

金 2時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
その他	1～	前期	2	50	50	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この講義は、レコードからメロディーやコードといった内容を聴き取り、譜面に書き表す通称「耳コピ」と言われるレコードコピーの実践を行う。レコードコピーはポピュラー音楽を学ぶ上で伝統的な学習方法のひとつであり、メロディーを覚えて口ずさみながら記譜したり、コードの聴き取り練習をし、日々の学習のメニューにレコードコピーを取り入れ、日常化させることを目標とする。

学修成果

実際の演奏、特にアンサンブルにおける他のパートを聴く集中力を養うことができ、またメロディーだけではなく、コードを聴き当てることでコードの機能性を理解することができる。さらにそれを記譜することにより、譜面の書き方を覚えることができる。

授業展開と内容

- 第1回 授業の解説、レコードコピーについて
- 第2回 コードネームのおさらい、譜面の書き方について
- 第3回 楽曲を聴きながら、小節数を追う
- 第4回 ベース音からrootを導き出す
- 第5回 メロディーを覚えて、口ずさみながらの採譜する
- 第6回 コードの聴き当て①…メジャーなのかマイナーなのかの判断
- 第7回 コードの聴き当て②…機能性の把握
- 第8回 書き上げた譜面を理論的に補完する
- 第9回 速く、細かいパッセージの聴き取り方…iPhoneアプリの活用法など
- 第10回 どうしても聴き取れない場合
- 第11回 楽器別パートの書き方の違い
- 第12回 覚えるまで聴くということ
- 第13回 実践1…楽曲1をレコードコピー
- 第14回 実践2…楽曲2をレコードコピー
- 第15回 実践3…楽曲3をレコードコピー
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。積極的に授業に参加すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で聴きとりに挑戦した楽曲の譜面を次回までに完成させてくること。授業時間内に課題を完成させることは困難なので、必ず自宅で自学修し完成させること。授業ごとに4時間の自学修が必要。授業内で個々に指導する時間を設けて適宜フィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし。

科目名－クラス名

イヤートレーニング

A

曜日時限

金 2時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
その他	1～	後期	2	50	50	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この講義は、レコードからメロディーやコードといった内容を聴き取り、譜面に書き表す通称「耳コピ」と言われるレコードコピーの実践を行う。レコードコピーはポピュラー音楽を学ぶ上で伝統的な学習方法のひとつであり、メロディーを覚えて口ずさみながら記譜したり、コードの聴き取り練習をし、日々の学習のメニューにレコードコピーを取り入れ、日常化させることを目標とする。

学修成果

実際の演奏、特にアンサンブルにおける他のパートを聴く集中力を養うことができ、またメロディーだけではなく、コードを聴き当てることでコードの機能性を理解することができる。さらにそれを記譜することにより、譜面の書き方を覚えることができる。

授業展開と内容

第1回	授業の解説、レコードコピーについて
第2回	コードネームのおさらい、譜面の書き方について
第3回	楽曲を聴きながら、小節数を追う
第4回	ベース音からrootを導き出す
第5回	メロディーを覚えて、口ずさみながらの採譜する
第6回	コードの聴き当て①…メジャーなのかマイナーなのかの判断
第7回	コードの聴き当て②…機能性の把握
第8回	書き上げた譜面を理論的に補完する
第9回	速く、細かいパッセージの聴き取り方…iPhoneアプリの活用法など
第10回	どうしても聴き取れない場合
第11回	楽器別パートの書き方の違い
第12回	覚えるまで聴くということ
第13回	実践1…楽曲1をレコードコピー
第14回	実践2…楽曲2をレコードコピー
第15回	実践3…楽曲3をレコードコピー
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。積極的に授業に参加すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で聴きとりに挑戦した楽曲の譜面を次回までに完成させてくること。授業時間内に課題を完成させることは困難なので、必ず自宅で自学修し完成させること。授業ごとに4時間の自学修が必要。授業内で個々に指導する時間を設けて適宜フィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし。

科目名-クラス名

イヤートレーニング

A

曜日時限

金 2時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
その他	1~	前期	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				50	50	0	0	0	

教育到達目標と概要

この講義は、レコードからメロディーやコードといった内容を聴き取り、譜面に書き表す通称「耳コピ」と言われるレコードコピーの実践を行う。レコードコピーはポピュラー音楽を学ぶ上で伝統的な学習方法のひとつであり、メロディーを覚えて口ずさみながら記譜したり、コードの聴き取り練習をし、日々の学習のメニューにレコードコピーを取り入れ、日常化させることを目標とする。

学修成果

実際の演奏、特にアンサンブルにおける他のパートを聴く集中力を養うことができ、またメロディーだけではなく、コードを聴き当てることでコードの機能性を理解することができる。さらにそれを記譜することにより、譜面の書き方を覚えることができる。

授業展開と内容

- 第1回 授業の解説、レコードコピーについて
- 第2回 コードネームのおさらい、譜面の書き方について
- 第3回 楽曲を聴きながら、小節数を追う
- 第4回 ベース音からrootを導き出す
- 第5回 メロディーを覚えて、口ずさみながらの採譜する
- 第6回 コードの聴き当て①…メジャーなのかマイナーなのかの判断
- 第7回 コードの聴き当て②…機能性の把握
- 第8回 書き上げた譜面を理論的に補完する
- 第9回 速く、細かいパッセージの聴き取り方…iPhoneアプリの活用法など
- 第10回 どうしても聴き取れない場合
- 第11回 楽器別パートの書き方の違い
- 第12回 覚えるまで聴くということ
- 第13回 実践1…楽曲1をレコードコピー
- 第14回 実践2…楽曲2をレコードコピー
- 第15回 実践3…楽曲3をレコードコピー
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。積極的に授業に参加すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で聴きとりに挑戦した楽曲の譜面を次回までに完成させてくること。授業時間内に課題を完成させることは困難なので、必ず自宅で自学修し完成させること。授業ごとに4時間の自学修が必要。授業内で個々に指導する時間を設けて適宜フィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし。

科目名－クラス名

イヤートレーニング

A

曜日時限

金 2時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
その他	1～	後期	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				50	50	0	0	0	

教育到達目標と概要

この講義は、レコードからメロディーやコードといった内容を聴き取り、譜面に書き表す通称「耳コピ」と言われるレコードコピーの実践を行う。レコードコピーはポピュラー音楽を学ぶ上で伝統的な学習方法のひとつであり、メロディーを覚えて口ずさみながら記譜したり、コードの聴き取り練習をし、日々の学習のメニューにレコードコピーを取り入れ、日常化させることを目標とする。

学修成果

実際の演奏、特にアンサンブルにおける他のパートを聴く集中力を養うことができ、またメロディーだけではなく、コードを聴き当てることでコードの機能性を理解することができる。さらにそれを記譜することにより、譜面の書き方を覚えることができる。

授業展開と内容

- 第1回 授業の解説、レコードコピーについて
- 第2回 コードネームのおさらい、譜面の書き方について
- 第3回 楽曲を聴きながら、小節数を追う
- 第4回 ベース音からrootを導き出す
- 第5回 メロディーを覚えて、口ずさみながらの採譜する
- 第6回 コードの聴き当て①…メジャーなのかマイナーなのかの判断
- 第7回 コードの聴き当て②…機能性の把握
- 第8回 書き上げた譜面を理論的に補完する
- 第9回 速く、細かいパッセージの聴き取り方…iPhoneアプリの活用法など
- 第10回 どうしても聴き取れない場合
- 第11回 楽器別パートの書き方の違い
- 第12回 覚えるまで聴くということ
- 第13回 実践1…楽曲1をレコードコピー
- 第14回 実践2…楽曲2をレコードコピー
- 第15回 実践3…楽曲3をレコードコピー
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。積極的に授業に参加すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で聴きとりに挑戦した楽曲の譜面を次回までに完成させてくること。授業時間内に課題を完成させることは困難なので、必ず自宅で自学修し完成させること。授業ごとに4時間の自学修が必要。授業内で個々に指導する時間を設けて適宜フィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法①

曜日時限

火 2時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	2～	通年	0	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				50	0	0	0	50	100

教育到達目標と概要

作曲や編曲に必要な理論を学び、最近のJ-Popヒット曲を題材として分析し、その楽曲を構成する作編曲的技法を探る。そしてそれらの楽曲がどのような作編曲技法によって成り立っているかを探り、基本的なポピュラー楽典、コードプレグレーション、リズムコンビネーションに興味を持ってもらい、自ら分析する姿勢と基本的作編曲技法の習得を目指す。

学修成果

ポピュラー音楽のコード進行を理解し、分析力が身に付き、基本的なコード進行を組み立てることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	基本的な楽典内容の復習 -倍音、音程-
第2回	基本的な楽典内容の復習 -調号、スケール-
第3回	基本的な楽典内容の復習 -調性、関係調-
第4回	コードネーム① -トライアド-
第5回	コードネーム② -セブンス-
第6回	小テストと解説
第7回	メジャーダイアトニックコード
第8回	マイナーダイアトニックコード
第9回	コード機能
第10回	ケーデンス
第11回	ドミナントモーション
第12回	Two-Five-One (メジャー)
第13回	Two-Five-One (マイナー)
第14回	セカンダリー・ドミナント
第15回	これまでのまとめ、楽曲分析小テスト (特徴的なTwo-Five進行のある曲)
第16回	代理コード、ドミナントセブンスの裏コード
第17回	借用和音、モーダルインターチェンジ
第18回	経過和音
第19回	循環コード
第20回	突然転調
第21回	ドミナントモーションを用いた転調
第22回	ピボットコードを用いた転調
第23回	異名同音を用いた転調
第24回	テンションコード
第25回	テンション・リゾルブ
第26回	モード
第27回	アヴェイラブル・ノート・スケール
第28回	様々なスケール
第29回	アッパー・ストラクチャー・トライアドの表記と理解
第30回	試験に向けてのまとめ

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。取り組んだ課題については必ず授業ごとにアドバイスをを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法①

電子オルガン

曜日時限

木 2時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	1～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	50	100
				50	0	0	0		

教育到達目標と概要

作曲や編曲に必要な理論を学び、最近のJ-Popヒット曲を題材として分析し、その楽曲を構成する作編曲的技法を探る。そしてそれらの楽曲がどのような作編曲技法によって成り立っているかを探り、基本的なポピュラー楽典、コードプレグレーション、リズムコンビネーションに興味を持ってもらい、自ら分析する姿勢と基本的作編曲技法の習得を目指す。

学修成果

ポピュラー音楽のコード進行を理解し、分析力が身に付き、基本的なコード進行を組み立てることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	基本的な楽典内容の復習 -倍音、音程-
第2回	基本的な楽典内容の復習 -調号、スケール-
第3回	基本的な楽典内容の復習 -調性、関係調-
第4回	コードネーム① -トライアド-
第5回	コードネーム② -セブンス-
第6回	小テストと解説
第7回	メジャーダイアトニックコード
第8回	マイナーダイアトニックコード
第9回	コード機能
第10回	ケーデンス
第11回	ドミナントモーション
第12回	Two-Five-One (メジャー)
第13回	Two-Five-One (マイナー)
第14回	セカンダリー・ドミナント
第15回	これまでのまとめ、楽曲分析小テスト (特徴的なTwo-Five進行のある曲)
第16回	代理コード、ドミナントセブンスの裏コード
第17回	借用和音、モーダルインターチェンジ
第18回	経過和音
第19回	循環コード
第20回	突然転調
第21回	ドミナントモーションを用いた転調
第22回	ピボットコードを用いた転調
第23回	異名同音を用いた転調
第24回	テンションコード
第25回	テンション・リゾルブ
第26回	モード
第27回	アヴェイラブル・ノート・スケール
第28回	様々なスケール
第29回	アッパー・ストラクチャー・トライアドの表記と理解
第30回	試験に向けてのまとめ

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。取り組んだ課題については必ず授業ごとにアドバイスをを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法①

ポピュラー

曜日時限

木 2時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				評価種別	定期試験				
講義	2～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

コードプログレッションで学んだ知識を活かし、実際のアンサンブルを行う為の実践的項目を修得する。ホーン・セクション/ストリングス・セクションを含む楽曲分析を行い、それらを最も的確に記譜する方法を探り自身のスコアリングに活かせるようにする。

学修成果

あらゆるPopsジャンルのリズムセクション譜面を書く事が出来る。自分のオリジナル作品及びオリジナル・アレンジ作品が的確な編成による譜面として書く事が出来る。

授業展開と内容

第1回	(復習) スケール・コードとファンクション
第2回	(復習) 代理コード①-同じファンクションでの代理と用例
第3回	(復習) 代理コード②-ドミナント7th代理、IVmの代理 (基本的モーダル・チェンジ)
第4回	ベースラインのトレーニング&演習
第5回	ドラムパターンのトレーニング&演習
第6回	ベースパターンとドラムパターン①8beats系ライティング
第7回	ベースパターンとドラムパターン②16beats系ライティング
第8回	ベースパターンとドラムパターン③ラテン系ライティング
第9回	ベースパターンとドラムパターン④バウンス&12beats系ライティング
第10回	ベースパターンとドラムパターン⑤5拍子&変拍子系ライティング
第11回	ギター、キーボードの演奏法・記譜法①
第12回	ギター、キーボードの演奏法・記譜法②
第13回	3段 (Gtr&Kb+Bass+ Drs) のマスターリズムでスコアリング①
第14回	3段のマスターリズムでスコアリング② 電子オルガン・アレンジへの応用
第15回	まとめ 3段マスターリズム作品の完成
第16回	ホーン・セクションを含むコンゴ編成の楽曲分析 (Tower of Power, EW&Fなど) ①
第17回	ホーン・セクションを含むコンゴ編成の楽曲分析 (最新のR&Bチャートより) ②
第18回	2管編成と3管編成の用例&演習①
第19回	2管編成と3管編成の用例&演習②
第20回	コード譜/リードシートからホーン・セクションを含む3段マスターリズムへ①
第21回	コード譜/リードシートからホーン・セクションを含む3段マスターリズムへ②
第22回	ストリングス・セクション&リズム・セクション編成の楽曲分析 (E.L.O、ジャミロクワイ、など) ①
第23回	ストリングス・セクション&リズム・セクション編成の楽曲分析 (最新のUS/UKチャートより) ②
第24回	Violins I & II、Violas、Cellos編成の用例&演習① Yesterdayの弦カルテット
第25回	Violins I & II、Violas、Cellos編成の用例&演習②
第26回	コード譜/リードシートからストリングス・セクションを含む3段マスターリズム/コンデンス・スコアへ①
第27回	コード譜/リードシートからストリングス・セクションを含む3段マスターリズム/コンデンス・スコアへ②
第28回	コンデンス・スコアからポップス・オーケストラ・スコアへ①
第29回	コンデンス・スコアからポップス・オーケストラ・スコアへ②
第30回	まとめ 作品提出

履修上の注意

筆記用具、五線ノートは必ず用意すること。必要な場合はiPhone/iPadなどのピアノ・アプリで音を確認するのも良い。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

常に最新のヒット曲や興味のある楽曲を出来るだけたくさん聴いておくこと。定期試験以外でもオリジナル作編曲作品を見せて欲しい。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

参考書/サウンズ&スコアーズ ヘンリーマンシーニ著、参考書/コンテンポラリー・アレンジャー ドン・セベスキー著、参考書/松田昌の音楽トレーニング。教材譜面は授業内で配付。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法①

作曲音楽デザイン指揮B

曜日時限

火 2時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
講義	2～	通年	4	評価割合	50	0	0	0	50	100

教育到達目標と概要

作曲や編曲に必要な理論を学び、最近のJ-Popヒット曲を題材として分析し、その楽曲を構成する作編曲的技法を探る。そしてそれらの楽曲がどのような作編曲技法によって成り立っているかを探り、基本的なポピュラー楽典、コードプレグレーション、リズムコンビネーションに興味を持ってもらい、自ら分析する姿勢と基本的作編曲技法の習得を目指す。

学修成果

ポピュラー音楽のコード進行を理解し、分析力が身に付き、基本的なコード進行を組み立てることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	基本的な楽典内容の復習 -倍音、音程-
第2回	基本的な楽典内容の復習 -調号、スケール-
第3回	基本的な楽典内容の復習 -調性、関係調-
第4回	コードネーム① -トライアド-
第5回	コードネーム② -セブンス-
第6回	小テストと解説
第7回	メジャーダイアトニックコード
第8回	マイナーダイアトニックコード
第9回	コード機能
第10回	ケーデンス
第11回	ドミナントモーション
第12回	Two-Five-One (メジャー)
第13回	Two-Five-One (マイナー)
第14回	セカンダリー・ドミナント
第15回	これまでのまとめ、楽曲分析小テスト (特徴的なTwo-Five進行のある曲)
第16回	代理コード、ドミナントセブンスの裏コード
第17回	借用和音、モーダルインターチェンジ
第18回	経過和音
第19回	循環コード
第20回	突然転調
第21回	ドミナントモーションを用いた転調
第22回	ピボットコードを用いた転調
第23回	異名同音を用いた転調
第24回	テンションコード
第25回	テンション・リゾルブ
第26回	モード
第27回	アヴェイラブル・ノート・スケール
第28回	様々なスケール
第29回	アッパー・ストラクチャー・トライアドの表記と理解
第30回	試験に向けてのまとめ

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。取り組んだ課題については必ず授業ごとにアドバイスをを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法①

サンプルB

曜日時限

火 2時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	1～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				50	0	0	0	50	100

教育到達目標と概要

作曲や編曲に必要な理論を学び、最近のJ-Popヒット曲を題材として分析し、その楽曲を構成する作編曲的技法を探る。そしてそれらの楽曲がどのような作編曲技法によって成り立っているかを探り、基本的なポピュラー楽典、コードプレグレーション、リズムコンビネーションに興味を持ってもらい、自ら分析する姿勢と基本的作編曲技法の習得を目指す。

学修成果

ポピュラー音楽のコード進行を理解し、分析力が身に付き、基本的なコード進行を組み立てることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	基本的な楽典内容の復習 -倍音、音程-
第2回	基本的な楽典内容の復習 -調号、スケール-
第3回	基本的な楽典内容の復習 -調性、関係調-
第4回	コードネーム① -トライアド-
第5回	コードネーム② -セブンス-
第6回	小テストと解説
第7回	メジャーダイアトニックコード
第8回	マイナーダイアトニックコード
第9回	コード機能
第10回	ケーデンス
第11回	ドミナントモーション
第12回	Two-Five-One (メジャー)
第13回	Two-Five-One (マイナー)
第14回	セカンダリー・ドミナント
第15回	これまでのまとめ、楽曲分析小テスト (特徴的なTwo-Five進行のある曲)
第16回	代理コード、ドミナントセブンスの裏コード
第17回	借用和音、モーダルインターチェンジ
第18回	経過和音
第19回	循環コード
第20回	突然転調
第21回	ドミナントモーションを用いた転調
第22回	ピボットコードを用いた転調
第23回	異名同音を用いた転調
第24回	テンションコード
第25回	テンション・リゾルブ
第26回	モード
第27回	アヴェイラブル・ノート・スケール
第28回	様々なスケール
第29回	アッパー・ストラクチャー・トライアドの表記と理解
第30回	試験に向けてのまとめ

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。取り組んだ課題については必ず授業ごとにアドバイスをを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法①

デジタルB

曜日時限

火 2時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
講義	1～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				50	0	0	0	50	100

教育到達目標と概要

作曲や編曲に必要な理論を学び、最近のJ-Popヒット曲を題材として分析し、その楽曲を構成する作編曲的技法を探る。そしてそれらの楽曲がどのような作編曲技法によって成り立っているかを探り、基本的なポピュラー楽典、コードプレグレーション、リズムコンビネーションに興味を持ってもらい、自ら分析する姿勢と基本的作編曲技法の習得を目指す。

学修成果

ポピュラー音楽のコード進行を理解し、分析力が身に付き、基本的なコード進行を組み立てることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	基本的な楽典内容の復習 -倍音、音程-
第2回	基本的な楽典内容の復習 -調号、スケール-
第3回	基本的な楽典内容の復習 -調性、関係調-
第4回	コードネーム① -トライアド-
第5回	コードネーム② -セブンス-
第6回	小テストと補足
第7回	メジャーダイアトニックコード
第8回	マイナーダイアトニックコード
第9回	コード機能
第10回	ケーデンス
第11回	ドミナントモーション
第12回	Two-Five-One (メジャー)
第13回	Two-Five-One (マイナー)
第14回	セカンダリー・ドミナント
第15回	楽曲分析小テスト (特徴的なTwo-Five進行のある曲)
第16回	代理コード、ドミナントセブンスの裏コード
第17回	借用和音、モーダルインターチェンジ
第18回	経過和音
第19回	循環コード
第20回	突然転調
第21回	ドミナントモーションを用いた転調
第22回	ピボットコードを用いた転調
第23回	異名同音を用いた転調
第24回	テンションコード
第25回	テンション・リゾルブ
第26回	モード
第27回	アヴェイラブル・ノート・スケール
第28回	様々なスケール
第29回	アッパー・ストラクチャー・トライアドの表記と理解
第30回	試験準備

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。取り組んだ課題については必ず授業ごとにアドバイスをを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法①

電子オルガン

曜日時限

木 2時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	1～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				50	0	0	0	50	100

教育到達目標と概要

作曲や編曲に必要な理論を学び、最近のJ-Popヒット曲を題材として分析し、その楽曲を構成する作編曲的技法を探る。そしてそれらの楽曲がどのような作編曲技法によって成り立っているかを探り、基本的なポピュラー楽典、コードプレグレーション、リズムコンビネーションに興味を持ってもらい、自ら分析する姿勢と基本的作編曲技法の習得を目指す。

学修成果

ポピュラー音楽のコード進行を理解し、分析力が身に付き、基本的なコード進行を組み立てることができるようになる。

授業展開と内容

第1回 基本的な楽典内容の復習 -倍音、音程-

第2回 基本的な楽典内容の復習 -調号、スケール-

第3回 基本的な楽典内容の復習 -調性、関係調-

第4回 コードネーム① -トライアド-

第5回 コードネーム② -セブンス-

第6回 小テストと補足

第7回 メジャーダイアトニックコード

第8回 マイナーダイアトニックコード

第9回 コード機能

第10回 ケーデンス

第11回 ドミナントモーション

第12回 Two-Five-One (メジャー)

第13回 Two-Five-One (マイナー)

第14回 セカンダリー・ドミナント

第15回 楽曲分析小テスト (特徴的なTwo-Five進行のある曲)

第16回 代理コード、ドミナントセブンスの裏コード

第17回 借用和音、モーダルインターチェンジ

第18回 経過和音

第19回 循環コード

第20回 突然転調

第21回 ドミナントモーションを用いた転調

第22回 ピボットコードを用いた転調

第23回 異名同音を用いた転調

第24回 テンションコード

第25回 テンション・リゾルブ

第26回 モード

第27回 アヴェイラブル・ノート・スケール

第28回 様々なスケール

第29回 アッパー・ストラクチャー・トライアドの表記と理解

第30回 試験準備

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。取り組んだ課題については必ず授業ごとにアドバイスをを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法①

ポピュラー

曜日時限

木 2時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
講義	2～	通年	4	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	0	0	100	0	0
									100

教育到達目標と概要

コードプログレッションで学んだ知識を活かし、実際のアンサンブルを行う為の実践的項目を修得する。ホーン・セクション/ストリングス・セクションを含む楽曲分析を行い、それらを最も的確に記譜する方法を探り自身のスコアリングに活かせるようにする。

学修成果

あらゆるPopsジャンルのリズムセクション譜面を書く事が出来る。自分のオリジナル作品及びオリジナル・アレンジ作品が的確な編成による譜面として書く事が出来る。

授業展開と内容

- 第1回 (復習) スケール・コードとファンクション
- 第2回 (復習) 代理コード①-同じファンクションでの代理と用例
- 第3回 (復習) 代理コード②-ドミナント7th代理、IVmの代理 (基本的モード・チェンジ)
- 第4回 ベースラインのトレーニング&演習
- 第5回 ドラムパターンのトレーニング&演習
- 第6回 ベースパターンとドラムパターン①8 beats系ライティング
- 第7回 ベースパターンとドラムパターン②16beats系ライティング
- 第8回 ベースパターンとドラムパターン③ラテン系ライティング
- 第9回 ベースパターンとドラムパターン④バウンス&12beats系ライティング
- 第10回 ベースパターンとドラムパターン⑤5拍子&変拍子系ライティング
- 第11回 ギター、キーボードの演奏法・記譜法①
- 第12回 ギター、キーボードの演奏法・記譜法②
- 第13回 3段 (Gtr&Kb+Bass+ Drs) のマスターリズムでスコアリング①
- 第14回 3段のマスターリズムでスコアリング② 電子オルガン・アレンジへの応用
- 第15回 まとめ 3段マスターリズム作品の完成
- 第16回 ホーン・セクションを含むコンゴ編成の楽曲分析 (Tower of Power, EW&Fなど) ①
- 第17回 ホーン・セクションを含むコンゴ編成の楽曲分析 (最新のR&Bチャートより) ②
- 第18回 2管編成と3管編成の用例&演習①
- 第19回 2管編成と3管編成の用例&演習②
- 第20回 コード譜/リードシートからホーン・セクションを含む3段マスターリズムへ①
- 第21回 コード譜/リードシートからホーン・セクションを含む3段マスターリズムへ②
- 第22回 ストリングス・セクション&リズム・セクション編成の楽曲分析 (E.L.O、ジャミロクワイ、など) ①
- 第23回 ストリングス・セクション&リズム・セクション編成の楽曲分析 (最新のUS/UKチャートより) ②
- 第24回 Violins I & II、Violas、Cellos編成の用例&演習① Yesterdayの弦カルテット
- 第25回 Violins I & II、Violas、Cellos編成の用例&演習②
- 第26回 コード譜/リードシートからストリングス・セクションを含む3段マスターリズム/コンデンス・スコアへ①
- 第27回 コード譜/リードシートからストリングス・セクションを含む3段マスターリズム/コンデンス・スコアへ②
- 第28回 コンデンス・スコアからポップス・オーケストラ・スコアへ①
- 第29回 コンデンス・スコアからポップス・オーケストラ・スコアへ②
- 第30回 まとめ 作品提出

履修上の注意

筆記用具、五線ノートは必ず用意すること。必要な場合はiPhone/iPadなどのピアノ・アプリで音を確認するのも良い。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

常に最新のヒット曲や興味のある楽曲を出来るだけたくさん聴いておくこと。定期試験以外でもオリジナル作編曲作品を見せて欲しい。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

参考書/サウンズ&スコアーズ ヘンリーマンシーニ著、参考書/コンテンポラリー・アレンジャー ドン・セベスキー著、参考書/松田昌の音楽トレーニング。教材譜面は授業内で配付。

科目名－クラス名

コードプロGRESSION（ベーシック）

ジャズポピュラー-B

曜日時限

火 2時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
講義	1～	通年	4	評価割合	50	0	0	0	50	100

教育到達目標と概要

作曲や編曲に必要な理論を学び、最近のJ-Popヒット曲を題材として分析し、その楽曲を構成する作編曲的技法を探る。そしてそれらの楽曲がどのような作編曲技法によって成り立っているかを探り、基本的なポピュラー楽典、コードプロGRESSION、リズムコンビネーションに興味を持ってもらい、自ら分析する姿勢と基本的作編曲技法の習得を目指す。

学修成果

ポピュラー音楽のコード進行を理解し、分析力が身に付き、基本的なコード進行を組み立てることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	基本的な楽典内容の復習 -倍音、音程-
第2回	基本的な楽典内容の復習 -調号、スケール-
第3回	基本的な楽典内容の復習 -調性、関係調-
第4回	コードネーム① -トライアド-
第5回	コードネーム② -セブンス-
第6回	小テストと解説
第7回	メジャーダイアトニックコード
第8回	マイナーダイアトニックコード
第9回	コード機能
第10回	ケーデンス
第11回	ドミナントモーション
第12回	Two-Five-One (メジャー)
第13回	Two-Five-One (マイナー)
第14回	セカンダリー・ドミナント
第15回	これまでのまとめ、楽曲分析小テスト（特徴的なTwo-Five進行のある曲）
第16回	代理コード、ドミナントセブンスの裏コード
第17回	借用和音、モーダルインターチェンジ
第18回	経過和音
第19回	循環コード
第20回	突然転調
第21回	ドミナントモーションを用いた転調
第22回	ピボットコードを用いた転調
第23回	異名同音を用いた転調
第24回	テンションコード
第25回	テンション・リゾルブ
第26回	モード
第27回	アヴェイラブル・ノート・スケール
第28回	様々なスケール
第29回	アッパー・ストラクチャー・トライアドの表記と理解
第30回	試験に向けてのまとめ

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。取り組んだ課題については必ず授業ごとにアドバイスをを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

コードプロGRESSION（ベーシック）

ジャズポピュラー-B

曜日時限

火 2時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
講義	1～	通年	4	評価種別	50	0	0	0	50	100
				評価割合						

教育到達目標と概要

作曲や編曲に必要な理論を学び、最近のJ-Popヒット曲を題材として分析し、その楽曲を構成する作編曲的技法を探る。そしてそれらの楽曲がどのような作編曲技法によって成り立っているかを探り、基本的なポピュラー楽典、コードプロGRESSION、リズムコンビネーションに興味を持ってもらい、自ら分析する姿勢と基本的作編曲技法の習得を目指す。

学修成果

ポピュラー音楽のコード進行を理解し、分析力が身に付き、基本的なコード進行を組み立てることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	基本的な楽典内容の復習 -倍音、音程-
第2回	基本的な楽典内容の復習 -調号、スケール-
第3回	基本的な楽典内容の復習 -調性、関係調-
第4回	コードネーム① -トライアド-
第5回	コードネーム② -セブンス-
第6回	小テストと解説
第7回	メジャーダイアトニックコード
第8回	マイナーダイアトニックコード
第9回	コード機能
第10回	ケーデンス
第11回	ドミナントモーション
第12回	Two-Five-One (メジャー)
第13回	Two-Five-One (マイナー)
第14回	セカンダリー・ドミナント
第15回	これまでのまとめ、楽曲分析小テスト（特徴的なTwo-Five進行のある曲）
第16回	代理コード、ドミナントセブンスの裏コード
第17回	借用和音、モーダルインターチェンジ
第18回	経過和音
第19回	循環コード
第20回	突然転調
第21回	ドミナントモーションを用いた転調
第22回	ピボットコードを用いた転調
第23回	異名同音を用いた転調
第24回	テンションコード
第25回	テンション・リゾルブ
第26回	モード
第27回	アヴェイラブル・ノート・スケール
第28回	様々なスケール
第29回	アッパー・ストラクチャー・トライアドの表記と理解
第30回	試験に向けてのまとめ

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。取り組んだ課題については必ず授業ごとにアドバイスをを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法②

作曲音楽デザイン指揮B

曜日時限

火 1時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	3～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容を元に、実際の編曲を行う為の実践的項目を修得する。より高度な編曲テクニックに加え旋律／リズムの考察とイントロ・間奏・エンディングの考え方に重点を置きアレンジ作品を書く事を目指す。

学修成果

実際の編曲を行う為の実践的手法が修得できるようになる。

授業展開と内容

第1回	ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容の確認
第2回	メロディーの骨格化
第3回	カウンターライン
第4回	オブリガート
第5回	フィラー
第6回	ペダル・ポイント
第7回	クリシェ
第8回	イントロの考察
第9回	イントロの実践
第10回	インターリュードの考察
第11回	インターリュードの実践
第12回	エンディングの考察
第13回	エンディングの実践
第14回	現代的なLoopミュージックの考察
第15回	現代的なLoopミュージックの実践
第16回	楽器の特性について
第17回	記譜法、マスターリズム譜について
第18回	様々なリズム
第19回	リズムセクション編成による編曲作品の制作
第20回	リズムセクション編成によるオリジナル作品の制作
第21回	テンション・リゾルブを効果的に用いたライン
第22回	2声、3声のヴォイスング（シンプルなコーラスアレンジやマリアッチのような小編成のヴォイスング）
第23回	4way Close
第24回	ダイアトニック・アプローチ/クロマチック・アプローチ/ディミニッシュ・アプローチ
第25回	4way closeの応用、Drop2,Drop3,Drop2&4とそれらに相応しい楽器（音色）編成
第26回	移調楽器の楽器法と特徴
第27回	管楽器・弦楽器・鍵盤楽器それぞれのアーティキュレーションと相違点
第28回	ホーン・セクションを含むコンポアレンジ（R & Bや小編成Jazz Band）研究/分析
第29回	ホーン・セクションを含むコンポ編成による編曲作品の制作
第30回	ホーン・セクションを含むコンポ編成によるオリジナル作品の制作

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。提出された課題については必ず授業ごとにアドバイスを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

■ 教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法②

サンプルB

曜日時限

火 1時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
講義	2～	通年	4	評価種別	0	0	100	0	0	100
				評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容を元に、実際の編曲を行う為の実践的項目を修得する。より高度な編曲テクニックに加え旋律／リズムの考察とイントロ・間奏・エンディングの考え方に重点を置きアレンジ作品を書く事を目指す。

学修成果

実際の編曲を行う為の実践的手法が修得できるようになる。

授業展開と内容

第1回	ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容の確認
第2回	メロディーの骨格化
第3回	カウンターライン
第4回	オブリガート
第5回	フィルラー
第6回	ペダル・ポイント
第7回	クリシェ
第8回	イントロの考察
第9回	イントロの実践
第10回	インターリュードの考察
第11回	インターリュードの実践
第12回	エンディングの考察
第13回	エンディングの実践
第14回	現代的なLoopミュージックの考察
第15回	現代的なLoopミュージックの実践
第16回	楽器の特性について
第17回	記譜法、マスターリズム譜について
第18回	様々なリズム
第19回	リズムセクション編成による編曲作品の制作
第20回	リズムセクション編成によるオリジナル作品の制作
第21回	テンション・リゾルブを効果的に用いたライン
第22回	2声、3声のヴォイスング（シンプルなコーラスアレンジやマリアッチのような小編成のヴォイスング）
第23回	4way Close
第24回	ダイアトニック・アプローチ/クロマチック・アプローチ/ディミニッシュ・アプローチ
第25回	4way closeの応用、Drop2,Drop3,Drop2&4とそれらに相応しい楽器（音色）編成
第26回	移調楽器の楽器法と特徴
第27回	管楽器・弦楽器・鍵盤楽器それぞれのアーティキュレーションと相違点
第28回	ホーン・セクションを含むコンポアレンジ（R & Bや小編成Jazz Band）研究/分析
第29回	ホーン・セクションを含むコンポ編成による編曲作品の制作
第30回	ホーン・セクションを含むコンポ編成によるオリジナル作品の制作

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。提出された課題については必ず授業ごとにアドバイスを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

■ 教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法②

デジタルB

曜日時限

火 1時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
講義	2～	通年	4	評価種別	0	0	100	0	0	100
				評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容を元に、実際の編曲を行う為の実践的項目を修得する。より高度な編曲テクニックに加え旋律／リズムの考察とイントロ・間奏・エンディングの考え方に重点を置きアレンジ作品を書く事を目指す。

学修成果

実際の編曲を行う為の実践的手法が修得できるようになる。

授業展開と内容

第1回	ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容の確認
第2回	メロディーの骨格化
第3回	カウンターライン
第4回	オブリガート
第5回	フィラー
第6回	ペダル・ポイント
第7回	クリシェ
第8回	イントロの考察
第9回	イントロの実践
第10回	インターリュードの考察
第11回	インターリュードの実践
第12回	エンディングの考察
第13回	エンディングの実践
第14回	現代的なLoopミュージックの考察
第15回	現代的なLoopミュージックの実践
第16回	楽器の特性について
第17回	記譜法、マスターリズム譜について
第18回	様々なリズム
第19回	リズムセクション編成による編曲作品の制作
第20回	リズムセクション編成によるオリジナル作品の制作
第21回	テンション・リゾルブを効果的に用いたライン
第22回	2声、3声のヴォイスング（シンプルなコーラスアレンジやマリアッチのような小編成のヴォイスング）
第23回	4way Close
第24回	ダイアトニック・アプローチ/クロマチック・アプローチ/ディミニッシュ・アプローチ
第25回	4way closeの応用、Drop2,Drop3,Drop2&4とそれらに相応しい楽器（音色）編成
第26回	移調楽器の楽器法と特徴
第27回	管楽器・弦楽器・鍵盤楽器それぞれのアーティキュレーションと相違点
第28回	ホーン・セクションを含むコンボアレンジ（R & Bや小編成Jazz Band）研究/分析
第29回	ホーン・セクションを含むコンボ編成による編曲作品の制作
第30回	ホーン・セクションを含むコンボ編成によるオリジナル作品の制作

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。提出された課題については必ず授業ごとにアドバイスを行う。1回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

■ 教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

コードプロGRESSION（アドバンス）

ジャズポピュラーB

曜日時限

火 1時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
講義	1～	通年	4	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容を元に、実際の編曲を行う為の実践的項目を修得する。より高度な編曲テクニックに加え旋律／リズムの考察とイントロ・間奏・エンディングの考え方に重点を置きアレンジ作品を書く事を目指す。

学修成果

実際の編曲を行う為の実践的手法が修得できるようになる。

授業展開と内容

第1回	ポピュラー作曲・編曲法1で学んだ内容の確認
第2回	コード譜にベースとドラムも書き込んである2～3段のマスターリズム記譜法(4/4拍子)
第3回	コード譜にベースとドラムも書き込んである2～3段のマスターリズム記譜法 (6/8拍子,SmoothJazz)
第4回	効果的な省略法、リフやフィラーを書き足すマスターリズム(Pops)
第5回	効果的な省略法、リフやフィラーを書き足すマスターリズム(Bossa-Nove,SmoothJazz)
第6回	カウンターライン/ペダルポイント Beatles[Yesterday][Help][Back in the U.S.S.R][Hello Goodbye]
第7回	カウンターライン/クリシェ Beatles[Something][While My Guitar Gently Weeps]
第8回	ドミナント7thのテンションを使ってカウンターラインを考える (テンション・リゾルブ)
第9回	カウンターラインの発展としてオブリガートを考える。(マンシーニのシェルプールの雨傘など)
第10回	Intro~Interlude~Endingの考察/Pops
第11回	Intro~Interlude~Endingの考察/Ballad
第12回	Intro~Interlude~Endingの考察/Bossa-Nova
第13回	Intro~Interlude~Endingの考察/J-Pop
第14回	現代的なLoopミュージックの考察
第15回	現代的なLoopミュージックの実践
第16回	ポップスで使われる楽器の特性について (管、弦、打)
第17回	管、弦、鍵盤楽器それぞれのアーティキュレーションと相違点①
第18回	管、弦、鍵盤楽器それぞれのアーティキュレーションと相違点②
第19回	2声のヴォイスिंगと3度と7thでハーモニーを考える練習
第20回	3声のヴォイスिंग/3度と7thとテンション (5度)
第21回	オクターブで有効なR&B的ホーンセクションStevie Wonder[Superstition]Mark Ronson[Uptown Funk]
第22回	オクターブ&3声のR&B的ホーンセクション (3管ホーンセクション・アレンジ) ①
第23回	オクターブ&3声のR&B的ホーンセクション (3管ホーンセクション・アレンジ) ②
第24回	シンプルなメロディーを4Way Closeでヴォイスिंग (ダイアトニックアプローチ)
第25回	非和音のあるメロディーのヴォイスिंग法 (クロマチックアプローチ/ディミニッシュアプローチ)
第26回	非和音のあるメロディーのヴォイスिंग法 (様々なリハーモナイゼーション)
第27回	Drop2.Drop3,Drop2&4
第28回	スプレッド
第29回	ホーン・セクションを含むコンゴ編成によるオリジナル作編曲作品の制作
第30回	ホーン・セクションを含むコンゴ編成によるオリジナル作編曲作品の提出。まとめ。

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。取り組んだ課題については必ず授業ごとにフィードバックを行う。毎回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

■ 教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名-クラス名

コードプロGRESSION (アドバンス)

ジャズポピュラーB

曜日時限

火 1時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	1~	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

ポピュラー作曲・編曲法①で学んだ内容を元に、実際の編曲を行う為の実践的項目を修得する。より高度な編曲テクニックに加え旋律/リズムの考察とイントロ・間奏・エンディングの考え方に重点を置きアレンジ作品を書く事を目指す。

学修成果

実際の編曲を行う為の実践的手法が修得できるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 ポピュラー作曲・編曲法1で学んだ内容の確認
- 第2回 コード譜にベースとドラムも書き込んである2~3段のマスターリズム記譜法(4/4拍子)
- 第3回 コード譜にベースとドラムも書き込んである2~3段のマスターリズム記譜法 (6/8拍子,SmoothJazz)
- 第4回 効果的な省略法、リフやフィラーを書き足すマスターリズム(Pops)
- 第5回 効果的な省略法、リフやフィラーを書き足すマスターリズム(Bossa-Nove,SmoothJazz)
- 第6回 カウンターライン/ペダルポイント Beatles[Yesterday][Help][Back in the U.S.S.R][Hello Goodbye]
- 第7回 カウンターライン/クリシェ Beatles[Something][While My Guitar Gently Weeps]
- 第8回 ドミナント7thのテンションを使ってカウンターラインを考える (テンション・リゾルブ)
- 第9回 カウンターラインの発展としてオブリガートを考える。(マンシーニのシェルプールの雨傘など)
- 第10回 Intro~Interlude~Endingの考察/Pops
- 第11回 Intro~Interlude~Endingの考察/Ballad
- 第12回 Intro~Interlude~Endingの考察/Bossa-Nova
- 第13回 Intro~Interlude~Endingの考察/J-Pop
- 第14回 現代的なLoopミュージックの考察
- 第15回 現代的なLoopミュージックの実践
- 第16回 ポップスで使われる楽器の特性について (管、弦、打)
- 第17回 管、弦、鍵盤楽器それぞれのアーティキュレーションと相違点①
- 第18回 管、弦、鍵盤楽器それぞれのアーティキュレーションと相違点②
- 第19回 2声のヴォイスिंगと3度と7thでハーモニーを考える練習
- 第20回 3声のヴォイスिंग/3度と7thとテンション (5度)
- 第21回 オクターブで有効なR&B的ホーンセクションStevie Wonder[Superstition]Mark Ronson[Uptown Funk]
- 第22回 オクターブ&3声のR&B的ホーンセクション (3管ホーンセクション・アレンジ) ①
- 第23回 オクターブ&3声のR&B的ホーンセクション (3管ホーンセクション・アレンジ) ②
- 第24回 シンプルなメロディーを4Way Closeでヴォイスिंग (ダイアトニックアプローチ)
- 第25回 非和音のあるメロディーのヴォイスिंग法 (クロマチックアプローチ/ディミニッシュアプローチ)
- 第26回 非和音のあるメロディーのヴォイスिंग法 (様々なリハーモナイゼーション)
- 第27回 Drop2.Drop3,Drop2&4
- 第28回 スプレッド
- 第29回 ホーン・セクションを含むコンゴ編成によるオリジナル作編曲作品の制作
- 第30回 ホーン・セクションを含むコンゴ編成によるオリジナル作編曲作品の提出。まとめ。

履修上の注意

毎回五線ノートと筆記用具を持参すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず復習をすること。取り組んだ課題については必ず授業ごとにフィードバックを行う。毎回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。

■ 教科書・参考書

「ポピュラー音楽理論」（昭和音楽大学）テキストを購入し使用する。

科目名－クラス名

メディア創作基礎Ⅰ

曜日時限

金 4時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
演習	1～	通年	2	0	0	50	50	0	100

教育到達目標と概要

グループ授業による創作演習授業を行う。毎回出される課題を基に、メロディーの創作、形式への理解、和音の学修などを包括して行い、理論と表現が結びついた、意思を持った演奏ができるようにする。また演奏動画を撮影、提出して動画投稿サイトへ限定共有することにより、自宅での学修を促進し、互いに刺激を受けコミュニケーションを図る。

学修成果

・楽譜を見てただ演奏するだけに留まらない、より創作的な演奏ができるようになる。・楽譜中の重要な音を理解して弾けるようになる。・有名な既存曲を知ることができる。

授業展開と内容

第1回	授業ガイダンス、iReal Proの使用法、動画投稿方法の説明
第2回	ミニマルスタイルについて理解を深め、与えられたモチーフを元に即興演奏を試みる
第3回	与えられたキーワードを元にイメージを膨らませ、ミニマルスタイルのモチーフを創作する
第4回	バロックスタイルについて理解を深め、与えられたモチーフを元に即興演奏を試みる
第5回	与えられたキーワードを元にイメージを膨らませ、バロックスタイルのモチーフを創作する
第6回	古典派スタイルについて理解を深め、与えられたモチーフを元に即興演奏を試みる
第7回	与えられたキーワードを元にイメージを膨らませ、古典派スタイルのモチーフを創作する
第8回	ロマン派のスタイルについて、コードネームの理解を深め、与えられたモチーフを元に即興演奏を試みる
第9回	与えられたキーワードを元にイメージを膨らませ、ロマン派スタイルのモチーフを創作する
第10回	印象派のスタイルについて、コードネームの理解を深め、与えられたモチーフを元に即興演奏を試みる
第11回	与えられたキーワードを元にイメージを膨らませ、印象派スタイルのモチーフを創作する
第12回	Jazz・Popsのスタイルについて、コードネームの理解を深め、与えられたモチーフを元に即興演奏を試みる
第13回	与えられたキーワードを元にイメージを膨らませ、Jazz・Popsのスタイルのモチーフを創作する
第14回	前期課題に取り組む
第15回	前期課題の発表、まとめ
第16回	前期のおさらい
第17回	自由に演奏してみて制限のない演奏の難しさを知る
第18回	与えられたメロディーの変奏から、新たなモチーフを創作する
第19回	与えられたキーワードを元にイメージを膨らませ、モチーフを創作する
第20回	各々が創作したモチーフを視聴し、互いに評価し合う
第21回	あるキーワードで共通する有名曲を紹介し、モチーフを分析する
第22回	有名な既存曲のモチーフと自身が創作したモチーフを比較する
第23回	創作したモチーフの要素を分析し、さらなる発展を試みる
第24回	基本的な記譜法についての理解を深める
第25回	創作したモチーフを五線紙に書き留める
第26回	三和音についての理解を深める
第27回	さらにコードネームについての理解を深める
第28回	カデンツについての理解を深める
第29回	学期末課題に取り組む
第30回	1年間のまとめとして創作した作品の動画を撮影、投稿により成果発表、課題作品の譜面を提出する

履修上の注意

①履修者所有のスマートフォンやタブレットを使用するので持参すること。持っていない人にはiPadを貸す。②ノートと五線紙を必ず持参すること。③プリント資料を使用するのでファイルを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回課された課題を動画投稿サイトに投稿、限定公開する形を宿題とし、次回授業までに履修者同士でコメントを付けることとする。取り組んだ課題については毎授業ひとりずつにフィードバックを行う。毎授業ごとに1時間の自学修が必要。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

メディア創作基礎Ⅰ

曜日時限

金 4時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
演習	1～	通年	2	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	0	0	50	50	0
									100

教育到達目標と概要

グループ授業による創作演習授業を行う。毎回出される課題を基に、メロディーの創作、形式への理解、和音の学修などを包括して行い、理論と表現が結びついた、意思を持った演奏ができるようにする。また演奏動画を撮影、提出して動画投稿サイトへ限定共有することにより、自宅での学修を促進し、互いに刺激を受けコミュニケーションを図る。

学修成果

・楽譜を見てただ演奏するだけに留まらない、より創作的な演奏ができるようになる。・楽譜中の重要な音を理解して弾けるようになる。・有名な既存曲を知ることができる。

授業展開と内容

第1回	授業ガイダンス、iReal Proの使用法、動画投稿方法の説明
第2回	ミニマルスタイルについて理解を深め、与えられたモチーフを元に即興演奏を試みる
第3回	与えられたキーワードを元にイメージを膨らませ、ミニマルスタイルのモチーフを創作する
第4回	バロックスタイルについて理解を深め、与えられたモチーフを元に即興演奏を試みる
第5回	与えられたキーワードを元にイメージを膨らませ、バロックスタイルのモチーフを創作する
第6回	古典派スタイルについて理解を深め、与えられたモチーフを元に即興演奏を試みる
第7回	与えられたキーワードを元にイメージを膨らませ、古典派スタイルのモチーフを創作する
第8回	ロマン派のスタイルについて、コードネームの理解を深め、与えられたモチーフを元に即興演奏を試みる
第9回	与えられたキーワードを元にイメージを膨らませ、ロマン派スタイルのモチーフを創作する
第10回	印象派のスタイルについて、コードネームの理解を深め、与えられたモチーフを元に即興演奏を試みる
第11回	与えられたキーワードを元にイメージを膨らませ、印象派スタイルのモチーフを創作する
第12回	Jazz・Popsのスタイルについて、コードネームの理解を深め、与えられたモチーフを元に即興演奏を試みる
第13回	与えられたキーワードを元にイメージを膨らませ、Jazz・Popsのスタイルのモチーフを創作する
第14回	前期課題に取り組む
第15回	前期課題の発表、まとめ
第16回	前期のおさらい
第17回	自由に演奏してみて制限のない演奏の難しさを知る
第18回	与えられたメロディーの変奏から、新たなモチーフを創作する
第19回	与えられたキーワードを元にイメージを膨らませ、モチーフを創作する
第20回	各々が創作したモチーフを視聴し、互いに評価し合う
第21回	あるキーワードで共通する有名曲を紹介し、モチーフを分析する
第22回	有名な既存曲のモチーフと自身が創作したモチーフを比較する
第23回	創作したモチーフの要素を分析し、さらなる発展を試みる
第24回	基本的な記譜法についての理解を深める
第25回	創作したモチーフを五線紙に書き留める
第26回	三和音についての理解を深める
第27回	さらにコードネームについての理解を深める
第28回	カデンツについての理解を深める
第29回	学期末課題に取り組む
第30回	1年間のまとめとして創作した作品の動画を撮影、投稿により成果発表、課題作品の譜面を提出する

履修上の注意

①履修者所有のスマートフォンやタブレットを使用するので持参すること。持っていない人にはiPadを貸す。②ノートと五線紙を必ず持参すること。③プリント資料を使用するのでファイルを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回課された課題を動画投稿サイトに投稿、限定公開する形を宿題とし、次回授業までに履修者同士でコメントを付けることとする。取り組んだ課題については毎授業ひとりずつにフィードバックを行う。毎授業ごとに1時間の自学修が必要。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

メディア創作基礎Ⅱ

曜日時限

金 4時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
演習	2～	通年	2	評価種別	0	0	50	50	0	100
				評価割合	0	0	50	50	0	100

教育到達目標と概要

メディア創作基礎Ⅰでの学修を基に、グループ授業による創作演習授業を行う。毎回出される課題を基に、メロディーの創作、形式への理解、和音の学修などを包括して行い、理論と表現が結びついた、意思を持った演奏ができるようにする。また演奏動画を撮影、提出して動画投稿サイトへ限定共有することにより、自宅での学修を促進し、互いに刺激を受けコミュニケーションを図る。

学修成果

- ・楽譜を見てただ演奏するだけに留まらない、より創作的な演奏ができるようになる。
- ・楽譜中の重要な音を理解して弾けるようになる。
- ・より理論に即した創作や演奏ができるようになる。

授業展開と内容

第1回	昨年度学修した内容のおさらい、年度末に提出した作品を視聴し、互いに評価し合う
第2回	普段よく耳にするメロディを持ち寄り、分析する
第3回	コードとメロディの関係性について理解を深める
第4回	より様々なコードの響きを知り、響きのイメージを持つ
第5回	Major7のコードを特徴に持つ有名曲の紹介と即興演奏を試みる
第6回	Major7のコードを元にしたメロディ創作、およびそれらを用いて伴奏部分を創作する
第7回	Minor7のコードを特徴に持つ有名曲の紹介と即興演奏を試みる
第8回	Minor7のコードを元にしたメロディ創作、およびそれらを用いて伴奏部分を創作する
第9回	dimコードを特徴に持つ有名曲の紹介と即興演奏を試みる
第10回	dimコードを元にしたメロディ創作、およびそれらを用いて伴奏部分を創作する
第11回	より様々なコード進行を知り、響きのイメージを持つ
第12回	ある特定のコード進行を特徴に持つ有名曲の紹介と即興演奏を試みる
第13回	ある特定のコード進行を元にしたメロディ創作、およびそれらを用いて伴奏部分を創作する
第14回	より様々なリズム様式を知り、それらが用いられた有名曲の紹介と即興演奏を試みる
第15回	ある特定のリズム様式を元にしたメロディ創作、およびそれらを用いて伴奏部分を創作する
第16回	前期のおさらい
第17回	Popsスタイルについてより理解を深める
第18回	Popsスタイルを意識しながら即興演奏を試みる
第19回	Popsスタイルを意識しながら即興演奏を連弾で試みる
第20回	与えられたコード進行を元にイメージを膨らませ、Popsスタイルのモチーフを創作する
第21回	与えられたキーワードを元にイメージを膨らませ、Popsスタイルのモチーフを創作する
第22回	Popsスタイルのモチーフから動画や写真を撮影する
第23回	Popsのスタイルにそった楽曲を創作し、譜面に書く
第24回	引き続き前回の課題に取り組む
第25回	各自が創作したPopsスタイルの作品を視聴し、互いに評価し合う
第26回	PMC合同コンサートに向けての準備
第27回	PMC合同コンサートに向けて各自発表する作品作りに取り組む
第28回	PMC合同コンサート
第29回	学期末課題に取り組む
第30回	1年間のまとめとして創作した作品の動画を撮影、投稿により成果発表、課題作品の譜面を提出する

履修上の注意

- ①履修者所有のスマートフォンやタブレットを使用するので持参すること。持っていない人にはiPadを貸す。
- ②ノートと五線紙を必ず持参すること。
- ③プリント資料を使用するのでファイルを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回課された課題を動画投稿サイトに投稿、限定公開する形を宿題とし、次回授業までに履修者同士でコメントを付けることとする。取り組んだ課題については毎授業ひとりずつにフィードバックを行う。毎授業ごとに1時間の自学修が必要。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

メディア創作基礎Ⅱ

曜日時限

金 4時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
演習	2～	通年	2		0	0	50	50	0	100

教育到達目標と概要

メディア創作基礎Ⅰでの学修を基に、グループ授業による創作演習授業を行う。毎回出される課題を基に、メロディーの創作、形式への理解、和音の学修などを包括して行い、理論と表現が結びついた、意思を持った演奏ができるようにする。また演奏動画を撮影、提出して動画投稿サイトへ限定共有することにより、自宅での学修を促進し、互いに刺激を受けコミュニケーションを図る。

学修成果

- ・楽譜を見てただ演奏するだけに留まらない、より創作的な演奏ができるようになる。
- ・楽譜中の重要な音を理解して弾けるようになる。
- ・より理論に即した創作や演奏ができるようになる。

授業展開と内容

第1回	昨年度学修した内容のおさらい、年度末に提出した作品を視聴し、互いに評価し合う
第2回	普段よく耳にするメロディを持ち寄り、分析する
第3回	コードとメロディの関係性について理解を深める
第4回	より様々なコードの響きを知り、響きのイメージを持つ
第5回	Major7のコードを特徴に持つ有名曲の紹介と即興演奏を試みる
第6回	Major7のコードを元にしたメロディ創作、およびそれらを用いて伴奏部分を創作する
第7回	Minor7のコードを特徴に持つ有名曲の紹介と即興演奏を試みる
第8回	Minor7のコードを元にしたメロディ創作、およびそれらを用いて伴奏部分を創作する
第9回	dimコードを特徴に持つ有名曲の紹介と即興演奏を試みる
第10回	dimコードを元にしたメロディ創作、およびそれらを用いて伴奏部分を創作する
第11回	より様々なコード進行を知り、響きのイメージを持つ
第12回	ある特定のコード進行を特徴に持つ有名曲の紹介と即興演奏を試みる
第13回	ある特定のコード進行を元にしたメロディ創作、およびそれらを用いて伴奏部分を創作する
第14回	より様々なリズム様式を知り、それらが用いられた有名曲の紹介と即興演奏を試みる
第15回	ある特定のリズム様式を元にしたメロディ創作、およびそれらを用いて伴奏部分を創作する
第16回	前期のおさらい
第17回	Popsスタイルについてより理解を深める
第18回	Popsスタイルを意識しながら即興演奏を試みる
第19回	Popsスタイルを意識しながら即興演奏を連弾で試みる
第20回	与えられたコード進行を元にイメージを膨らませ、Popsスタイルのモチーフを創作する
第21回	与えられたキーワードを元にイメージを膨らませ、Popsスタイルのモチーフを創作する
第22回	Popsスタイルのモチーフから動画や写真を撮影する
第23回	Popsのスタイルにそった楽曲を創作し、譜面に書く
第24回	引き続き前回の課題に取り組む
第25回	各自が創作したPopsスタイルの作品を視聴し、互いに評価し合う
第26回	PMC合同コンサートに向けての準備
第27回	PMC合同コンサートに向けて各自発表する作品作りに取り組む
第28回	PMC合同コンサート
第29回	学期末課題に取り組む
第30回	1年間のまとめとして創作した作品の動画を撮影、投稿により成果発表、課題作品の譜面を提出する

履修上の注意

- ①履修者所有のスマートフォンやタブレットを使用するので持参すること。持っていない人にはiPadを貸す。
- ②ノートと五線紙を必ず持参すること。
- ③プリント資料を使用するのでファイルを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回課された課題を動画投稿サイトに投稿、限定公開する形を宿題とし、次回授業までに履修者同士でコメントを付けることとする。取り組んだ課題については毎授業ひとりずつにフィードバックを行う。毎授業ごとに1時間の自学修が必要。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

メディア創作演習③

曜日時限

金 5時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
演習	3～	通年	2	評価割合	0	0	50	50	0	100

教育到達目標と概要

メディア創作演習①②での学修を基に、グループ授業による創作演習授業を行う。毎回出される課題を基に、メロディーの創作、形式への理解、和音の学修などを包括して行い、理論と表現が結びついた、意思を持った演奏ができるようにする。また演奏動画を撮影、提出して動画投稿サイトへ限定共有することにより、自宅での学修を促進し、互いに刺激を受けコミュニケーションを図る。

学修成果

- ・楽譜を見てただ演奏するだけに留まらない、より創作的な演奏ができるようになる。
- ・楽譜中の重要な音を理解して弾けるようになる。
- ・与えられたテーマを基にした即興演奏ができるようになる。

授業展開と内容

第1回	昨年度学修した内容のおさらい、年度末に提出した作品を視聴し、互いに評価し合う
第2回	Jazzのスタイルについてより理解を深める
第3回	Jazzのスタイルを意識しながら即興演奏を試みる
第4回	与えられたキーワードを元にイメージを膨らませ、Jazzスタイルのモチーフを創作する
第5回	Jazzスタイルについてより理解を深める
第6回	Jazzスタイルを意識しながら即興演奏を試みる
第7回	Jazzスタイルを意識しながら即興演奏を連弾で試みる
第8回	与えられたコード進行を元にイメージを膨らませ、Jazzスタイルのモチーフを創作する
第9回	与えられたキーワードを元にイメージを膨らませ、Jazzスタイルのモチーフを創作する
第10回	Jazzスタイルのモチーフから動画や写真を撮影する
第11回	Jazzスタイルにそった楽曲を創作し、譜面に書く
第12回	引き続き前回の課題に取り組む
第13回	各自が創作したJazzスタイルの作品を視聴し、互いに評価し合う
第14回	前期課題に取り組む
第15回	前期のまとめ
第16回	前期のおさらい
第17回	非和声音の扱い、複数の和音を積み重ねた響きを味わう
第18回	順次進行によるモチーフを用いた有名曲の紹介、即興演奏、およびメロディ創作
第19回	3度跳躍によるモチーフを用いた有名曲の紹介、即興演奏、およびメロディ創作
第20回	4度跳躍によるモチーフを用いた有名曲の紹介、即興演奏、およびメロディ創作
第21回	5度跳躍によるモチーフを用いた有名曲の紹介、即興演奏、およびメロディ創作
第22回	6度跳躍によるモチーフを用いた有名曲の紹介、即興演奏、およびメロディ創作
第23回	7度跳躍によるモチーフを用いた有名曲の紹介、即興演奏、およびメロディ創作
第24回	8度跳躍によるモチーフを用いた有名曲の紹介、即興演奏、およびメロディ創作
第25回	様々な音程を盛り込んだモチーフを創作、互いに交換して即興演奏を試みる
第26回	PMC合同コンサートに向けての準備
第27回	PMC合同コンサートに向けて各自発表する作品作りに取り組む
第28回	PMC合同コンサート
第29回	学期末課題に取り組む
第30回	1年間のまとめとして創作した作品の動画を撮影、投稿により成果発表、課題作品の譜面を提出する

履修上の注意

- ①履修者所有のスマートフォンやタブレットを使用するので持参すること。持っていない人にはiPadを貸す。
- ②ノートと五線紙を必ず持参すること。
- ③プリント資料を使用するのでファイルを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回課された課題を動画投稿サイトに投稿、限定公開する形を宿題とし、次回授業までに履修者同士でコメントを付けることとする。取り組んだ課題については毎授業ひとりずつにフィードバックを行う。毎授業ごとに1時間の自学修が必要。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

メディア創作演習④

曜日時限

金 5時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
演習	4～	通年	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				0	0	50	50	0	100

教育到達目標と概要

メディア創作演習①②③での学修を基に、グループ授業による創作演習授業を行う。毎日出される課題を基に、メロディーの創作、形式への理解、和音の学修などを包括して行い、理論と表現が結びついた、意思を持った演奏ができるようになる。また演奏動画を撮影、提出して動画投稿サイトへ限定共有することにより、自宅での学修を促進し、互いに刺激を受けコミュニケーションを図る。

学修成果

- ・楽譜を見てただ演奏するだけに留まらない、より創作的な演奏ができるようになる。
- ・楽譜中の重要な音を理解して弾けるようになる。
- ・与えられたテーマを基にした即興演奏ができるようになる。

授業展開と内容

第1回	昨年度学修した内容のおさらい、年度末に提出した作品を視聴し、互いに評価し合う
第2回	五音音階について理解を深める
第3回	五音音階を用いたモチーフの創作
第4回	より様々な音階を知り、メロディに与える影響への理解を深める
第5回	無調について理解を深める
第6回	無調によるメロディ創作、および伴奏部分を充実させる
第7回	無調による即興演奏を試みる
第8回	読み上げられているテキスト音声に音が当てはめられた楽曲の紹介
第9回	読み上げられているテキスト音声に音を当てはめ、メロディにする
第10回	前述のメロディに伴奏部分を創作する
第11回	テキスト音声課題に創作した楽曲を重ねて録音する
第12回	即興課題：互いにテーマを出し合い、それを元に膨らませて1曲に仕上げる
第13回	即興課題：与えられたテーマをその場で膨らませて1曲に仕上げる
第14回	前期課題に取り組む
第15回	前期のまとめ
第16回	前期のおさらい
第17回	自分のスタイルの確立をするために、過去の作品を紐解く
第18回	即興ではなく、自分の作品を記譜して残していく
第19回	引き続き記譜作業を通してモチーフの使い回しを試みる
第20回	引き続き記譜作業を通して形式を整理する
第21回	上記作品を互いに交換、演奏してみる
第22回	上記作品を録音してみる
第23回	モチーフとなる動画や写真を撮影
第24回	上記動画と録音した演奏を合わせてみる
第25回	引き続き動画を編集し、互いに評価する
第26回	PMC合同コンサートに向けての準備。様々なピアノ作品の譜面をあらためて検証する
第27回	PMC合同コンサートに向けて各自発表する作品作りに取り組む
第28回	PMC合同コンサート
第29回	4年間のまとめとして、創作した作品を譜面にする作業を始める。譜面にする過程で生じた諸問題を各自申告し、クラスで共有する。ピアノ譜の特徴を理解すること、声部を丁寧に書き分ける。
第30回	スラーや強弱記号、アーティキュレーションなどの細部の手直し。総復習として創作した作品の動画を撮影、投稿により成果発表、課題作品の譜面を提出する

履修上の注意

- ①履修者所有のスマートフォンやタブレットを使用するので持参すること。持っていない人にはiPadを貸す。
- ②ノートと五線紙を必ず持参すること。
- ③プリント資料を使用するのでファイルを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回課された課題を動画投稿サイトに投稿、限定公開する形を宿題とし、次回授業までに履修者同士でコメントを付けることとする。取り組んだ課題については毎授業ひとりずつにフィードバックを行う。毎授業ごとに1時間の自学修が必要。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

鍵盤ソルフェージュ①

A

曜日時限

水 2時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
演習	1～	通年	2	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

弾き歌い、伴奏づけ、移調奏などを鍵盤上で学修する。主要三和音を中心に、借用和音（副属七の和音）を学修する。授業はコードネームと和音記号で行う。ここでの弾き歌いとは「両手による開離位置での伴奏づけを中心としたもの」を指し、伴奏づけとは「メロディーへの密集位置での伴奏づけ」を指す。移調奏なども年間を通じて積極的に行う。

授業では音楽教育用コンピューターシステム(ミュージック・ラボラトリー)を使用する。教員と学生が1対1、または教員対複数学生でのやりとりが可能であり、グループ授業でありながら、同時にシステム上で交信することにより、教員が模範演奏を示したり、学生の演奏を確認するなど、個別にきめ細かく指導することができる。

学修成果

弾き歌い、伴奏づけ、移調奏が鍵盤上で即興的に演奏できるようになる。また、グレード試験（3・4・5級程度）の対策になる。

授業展開と内容

第1回	テキストを使用して1年間の説明と授業開始。
第2回	テキストLevel1のNo.1~4を用いて、ハ長調（C dur）の主要三和音を用いた弾き歌い（メロディーを弾かずに、右手で和音、左手でベースを付ける形態）を体験してみる。また、固有和音、コードネームや和音記号の説明を行う。
第3回	テキストLevel1のNo.1~4を用いて、ハ長調（C dur）の属七～I度の修得に努める。また、副三和音の説明を行い、II度～属七～I度の修得に努める。
第4回	テキストLevel1のNo.5~7を用いて、ヘ長調（F dur）、ト長調（G dur）の属七～I度の修得に努める。また、副三和音が用いられた和音進行の修得に努める。
第5回	副教材①を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
第6回	テキストLevel1のNo.8~11を用いて、変ロ長調（B dur）、ニ長調（D dur）の属七～I度の修得に努める。また、イ短調（a moll）についても体験してみる。
第7回	テキストLevel2のNo.1~3を用いて、ハ長調（C dur）、ト長調（G dur）の副三和音、ならびに副属七を加えた弾き歌いに取り組むことで、副属七についての理解に努める。また、ニ短調（d moll）における平行調からの和音の借用の理解に努める。
第8回	副教材②を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
第9回	テキストLevel2のNo.4~5を用いて、ハ長調（C dur）、ト長調（G dur）の副三和音、ならびに副属七を加えた弾き歌いに取り組んでみることで、平行調からの和音の借用やドッペルドミナントの修得に努める。
第10回	テキストLevel2のNo.6~7を用いて、ト長調（G dur）、ニ長調（D dur）の副三和音、ならびに副属七を加えた弾き歌いに取り組んでみることで、II度調からの和音の借用やドッペルドミナントの修得に努める。また、sus4から主和音への解決を味わい、修得に努める。
第11回	副教材③を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
第12回	テキストLevel2のNo.8~11を用いて、ホ短調（e moll）、ヘ長調（F dur）、変ロ長調（B dur）の副三和音、ならびに副属七を加えた弾き歌いに取り組んでみる。短調における減五短七和音の修得に努める。また、サブドミナントマイナーを味わい、修得に努める。
第13回	テキストLevel2のNo.12~14を用いて、ヘ長調（F dur）、ホ短調（e moll）、変ロ長調（B dur）の左手バス音を工夫することで転回形を用いた弾き歌いの修得に努める。
第14回	副教材④を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
第15回	前期のまとめ。
第16回	テキストLevel2のNo.15~16を用いて、ニ長調（D dur）、ロ短調（h moll）の課題に取り組み、短七和音の修得に努める。
第17回	テキストLevel2のNo.17~20を用いて、ハ長調（C dur）、ト長調（G dur）、ヘ長調（F dur）、ニ長調（D dur）の課題に取り組み、sus4から主和音への解決を味わい、修得に努める。
第18回	テキストLevel2のNo.21~22を用いて、ヘ長調（F dur）、ハ長調（C dur）の課題に取り組み、サブドミナントマイナーを味わい、修得に努める。また、減五短七和音の修得に努める。
第19回	副教材⑤を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
第20回	テキストLevel2のNo.23~24を用いて、ト短調（g moll）、変ロ長調（B dur）の課題に取り組み、減三和音の理解を深め、さらにII度～属七～I度の修得に努める。
第21回	テキストLevel2のNo.25~28を用いて、イ長調（A dur）、ハ短調（c moll）、ト短調（g moll）の課題に取り組み、前期に学んだことの復習、さらに長七和音の修得に努める。
第22回	テキストLevel2のNo.29~30を用いて、ニ長調（D dur）、ホ短調（e moll）の課題に取り組み、様々な伴奏リズムを体験し、修得に努める。さらにピカル

ディー終止の理解を深める。

第23回 副教材⑥を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第24回 テキストLevel2のNo.31~32を用いて、二長調（D dur）、ト長調（G dur）の課題に取り組む、同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。

第25回 テキストLevel2のNo.33~34を用いて、二長調（D dur）の課題に取り組む、同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。

第26回 副教材⑦を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第27回 テキストLevel2のNo.35~36を用いて、イ長調（A dur）、ニ短調（d moll）の課題に取り組む、同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。

第28回 テキストLevel2のNo.37~38を用いて、二長調（D dur）、ト短調（g moll）の課題に取り組む、同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。副属七の徹底、ドミナント→トニックの響き、及び転調による響きの変化を把握する。

第29回 副教材⑧を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第30回 一年のまとめ 筆記で習熟度を確認する

履修上の注意

定期試験では、筆記試験で習熟度を確認、実技試験は弾き歌いを中心に行う。試験の実施方法については担当教員の指示に従うこと。
イヤホン（有線・3.5mmミニプラグ）を持参することが望ましい。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業終了後には必ず復習をすること（60分） スケールやカデンツなどの鍵盤での基礎的な練習を日課として行うこと。
15回目に行うまとめの課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。
また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

- （教）鍵盤ソルフェージュ（昭和音楽大学）
- （参）授業の進行に応じて指定する。

科目名－クラス名

鍵盤ソルフェージュ①

E

曜日時限

火 4時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習	1～	通年	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

弾き歌い、伴奏づけ、移調奏などを鍵盤上で学修する。主要三和音を中心に、借用和音（副属七の和音）を学修する。授業はコードネームと和音記号で行う。ここでいう弾き歌いとは「両手による開離位置での伴奏づけを中心としたもの」を指し、伴奏づけとは「メロディーへの密集位置での伴奏づけ」を指す。移調奏なども年間を通じて積極的に行う。

授業では音楽教育用コンピューターシステム(ミュージック・ラボラトリー)を使用する。教員と学生が1対1、または教員対複数学生でのやりとりが可能であり、グループ授業でありながら、同時にシステム上で交信することにより、教員が模範演奏を示したり、学生の演奏を確認するなど、個別にきめ細かく指導することができる。

学修成果

弾き歌い、伴奏づけ、移調奏が鍵盤上で即興的に演奏できるようになる。また、グレード試験（3・4・5級程度）の対策になる。

授業展開と内容

第1回	テキストを使用して1年間の説明と授業開始。
第2回	テキストLevel1のNo.1~4を用いて、ハ長調（C dur）の主要三和音を用いた弾き歌い（メロディーを弾かずに、右手で和音、左手でベースを付ける形態）を体験してみる。また、固有和音、コードネームや和音記号の説明を行う。
第3回	テキストLevel1のNo.1~4を用いて、ハ長調（C dur）の属七～I度の修得に努める。また、副三和音の説明を行い、II度～属七～I度の修得に努める。
第4回	テキストLevel1のNo.5~7を用いて、ヘ長調（F dur）、ト長調（G dur）の属七～I度の修得に努める。また、副三和音が用いられた和音進行の修得に努める。
第5回	副教材①を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
第6回	テキストLevel1のNo.8~11を用いて、変ロ長調（B dur）、ニ長調（D dur）の属七～I度の修得に努める。また、イ短調（a moll）についても体験してみる。
第7回	テキストLevel2のNo.1~3を用いて、ハ長調（C dur）、ト長調（G dur）の副三和音、ならびに副属七を加えた弾き歌いに取り組むことで、副属七についての理解に努める。また、ニ短調（d moll）における平行調からの和音の借用の理解に努める。
第8回	副教材②を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
第9回	テキストLevel2のNo.4~5を用いて、ハ長調（C dur）、ト長調（G dur）の副三和音、ならびに副属七を加えた弾き歌いに取り組んでみることで、平行調からの和音の借用やドッペルドミナントの修得に努める。
第10回	テキストLevel2のNo.6~7を用いて、ト長調（G dur）、ニ長調（D dur）の副三和音、ならびに副属七を加えた弾き歌いに取り組んでみることで、II度調からの和音の借用やドッペルドミナントの修得に努める。また、sus4から主和音への解決を味わい、修得に努める。
第11回	副教材③を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
第12回	テキストLevel2のNo.8~11を用いて、ホ短調（e moll）、ヘ長調（F dur）、変ロ長調（B dur）の副三和音、ならびに副属七を加えた弾き歌いに取り組んでみる。短調における減五短七和音の修得に努める。また、サブドミナントマイナーを味わい、修得に努める。
第13回	テキストLevel2のNo.12~14を用いて、ヘ長調（F dur）、ホ短調（e moll）、変ロ長調（B dur）の左手バス音を工夫することで転回形を用いた弾き歌いの修得に努める。
第14回	副教材④を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
第15回	前期のまとめ。
第16回	テキストLevel2のNo.15~16を用いて、ニ長調（D dur）、ロ短調（h moll）の課題に取り組み、短七和音の修得に努める。
第17回	テキストLevel2のNo.17~20を用いて、ハ長調（C dur）、ト長調（G dur）、ヘ長調（F dur）、ニ長調（D dur）の課題に取り組み、sus4から主和音への解決を味わい、修得に努める。
第18回	テキストLevel2のNo.21~22を用いて、ヘ長調（F dur）、ハ長調（C dur）の課題に取り組み、サブドミナントマイナーを味わい、修得に努める。また、減五短七和音の修得に努める。
第19回	副教材⑤を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
第20回	テキストLevel2のNo.23~24を用いて、ト短調（g moll）、変ロ長調（B dur）の課題に取り組み、減三和音の理解を深め、さらにII度～属七～I度の修得に努める。
第21回	テキストLevel2のNo.25~28を用いて、イ長調（A dur）、ハ短調（c moll）、ト短調（g moll）の課題に取り組み、前期に学んだことの復習、さらに長七和音の修得に努める。
第22回	テキストLevel2のNo.29~30を用いて、ニ長調（D dur）、ホ短調（e moll）の課題に取り組み、様々な伴奏リズムを体験し、修得に努める。さらにピカル

ディー終止の理解を深める。

第23回 副教材⑥を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第24回 テキストLevel2のNo.31~32を用いて、二長調（D dur）、ト長調（G dur）の課題に取り組む、同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。

第25回 テキストLevel2のNo.33~34を用いて、二長調（D dur）の課題に取り組む、同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。

第26回 副教材⑦を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第27回 テキストLevel2のNo.35~36を用いて、イ長調（A dur）、ニ短調（d moll）の課題に取り組む、同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。

第28回 テキストLevel2のNo.37~38を用いて、二長調（D dur）、ト短調（g moll）の課題に取り組む、同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。副属七の徹底、ドミナント→トニックの響き、及び転調による響きの変化を把握する。

第29回 副教材⑧を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第30回 一年のまとめ 筆記で習熟度を確認する

履修上の注意

定期試験では、筆記試験で習熟度を確認、実技試験は弾き歌いを中心に行う。試験の実施方法については担当教員の指示に従うこと。
イヤホン（有線・3.5mmミニプラグ）を持参することが望ましい。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業終了後には必ず復習をすること（60分） スケールやカデンツなどの鍵盤での基礎的な練習を日課として行うこと。
15回目に行うまとめの課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。
また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

- （教）鍵盤ソルフェージュ（昭和音楽大学）
- （参）授業の進行に応じて指定する。

科目名-クラス名

鍵盤ソルフェージュ①

A

曜日時限

水 2時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	1~	通年	2	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

弾き歌い、伴奏づけ、移調奏などを鍵盤上で学修する。主要三和音を中心に、借用和音（副属七の和音）を学修する。授業はコードネームと和音記号で行う。ここでいう弾き歌いとは「両手による開離位置での伴奏づけを中心としたもの」を指し、伴奏づけとは「メロディーへの密集位置での伴奏づけ」を指す。移調奏なども年間を通じて積極的に行う。

授業では音楽教育用コンピューターシステム(ミュージック・ラボラトリー)を使用する。教員と学生が1対1、または教員対複数学生でのやりとりが可能であり、グループ授業でありながら、同時にシステム上

学修成果

弾き歌い、伴奏づけ、移調奏が鍵盤上で即興的に演奏できるようになる。また、グレード試験（3・4・5級程度）の対策になる。

授業展開と内容

第1回 テキストを使用して1年間の説明と授業開始。

第2回 テキストLevel1のNo.1~4を用いて、ハ長調（C dur）の主要三和音を用いた弾き歌い（メロディーを弾かずに、右手で和音、左手でベースを付ける形態）を体験してみる。また、固有和音、コードネームや和音記号の説明を行う。

第3回 テキストLevel1のNo.1~4を用いて、ハ長調（C dur）の属七〜I度の修得に努める。また、副三和音の説明を行い、II度〜属七〜I度の修得に努める。

第4回 テキストLevel1のNo.5~7を用いて、ヘ長調（F dur）、ト長調（G dur）の属七〜I度の修得に努める。また、副三和音が用いられた和音進行の修得に努める。

第5回 副教材①を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第6回 テキストLevel1のNo.8~11を用いて、変ロ長調（B dur）、ニ長調（D dur）の属七〜I度の修得に努める。また、イ短調（a moll）についても体験してみる。

第7回 テキストLevel2のNo.1~3を用いて、ハ長調（C dur）、ト長調（G dur）の副三和音、ならびに副属七を加えた弾き歌いに取り組むことで、副属七についての理解に努める。また、ニ短調（d moll）における平行調からの和音の借用の理解に努める。

第8回 副教材②を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第9回 テキストLevel2のNo.4~5を用いて、ハ長調（C dur）、ト長調（G dur）の副三和音、ならびに副属七を加えた弾き歌いに取り組んでみることで、平行調からの和音の借用やドッペルドミナントの修得に努める。

第10回 テキストLevel2のNo.6~7を用いて、ト長調（G dur）、ニ長調（D dur）の副三和音、ならびに副属七を加えた弾き歌いに取り組んでみることで、II度調からの和音の借用やドッペルドミナントの修得に努める。また、sus4から主和音への解決を味わい、修得に努める。

第11回 副教材③を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第12回 テキストLevel2のNo.8~11を用いて、ホ短調（e moll）、ヘ長調（F dur）、変ロ長調（B dur）の副三和音、ならびに副属七を加えた弾き歌いに取り組んでみる。短調における減五短七和音の修得に努める。また、サブドミナントマイナーを味わい、修得に努める。

第13回 テキストLevel2のNo.12~14を用いて、ヘ長調（F dur）、ホ短調（e moll）、変ロ長調（B dur）の左手バス音を工夫することで転回形を用いた弾き歌いの修得に努める。

第14回 副教材④を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第15回 前期のまとめ。

第16回 テキストLevel2のNo.15~16を用いて、ニ長調（D dur）、ロ短調（h moll）の課題に取り組み、短七和音の修得に努める。

第17回 テキストLevel2のNo.17~20を用いて、ハ長調（C dur）、ト長調（G dur）、ヘ長調（F dur）、ニ長調（D dur）の課題に取り組み、sus4から主和音への解決を味わい、修得に努める。

第18回 テキストLevel2のNo.21~22を用いて、ヘ長調（F dur）、ハ長調（C dur）の課題に取り組み、サブドミナントマイナーを味わい、修得に努める。また、減五短七和音の修得に努める。

第19回 副教材⑤を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第20回 テキストLevel2のNo.23~24を用いて、ト短調（g moll）、変ロ長調（B dur）の課題に取り組み、減三和音の理解を深め、さらにII度〜属七〜I度の修得に努める。

第21回 テキストLevel2のNo.25~28を用いて、イ長調（A dur）、ハ短調（c moll）、ト短調（g moll）の課題に取り組み、前期に学んだことの復習、さらに長七和音の修得に努める。

第22回 テキストLevel2のNo.29~30を用いて、ニ長調（D dur）、ホ短調（e moll）の課題に取り組み、様々な伴奏リズムを体験し、修得に努める。さらにピカルディー終止の理解を深める。

- 第23回 副教材⑥を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
- 第24回 テキストLevel2のNo.31~32を用いて、二長調（D dur）、ト長調（G dur）の課題に取り組み、同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。
- 第25回 テキストLevel2のNo.33~34を用いて、二長調（D dur）の課題に取り組み、同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。
- 第26回 副教材⑦を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
- 第27回 テキストLevel2のNo.35~36を用いて、イ長調（A dur）、ニ短調（d moll）の課題に取り組み、同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。
- 第28回 テキストLevel2のNo.37~38を用いて、二長調（D dur）、ト短調（g moll）の課題に取り組み、同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。副属七の徹底、ドミナント→トニックの響き、及び転調による響きの変化を把握する。
- 第29回 副教材⑧を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
- 第30回 一年のまとめ 筆記で習熟度を確認する

履修上の注意

定期試験では、筆記試験で習熟度を確認、実技試験は弾き歌いを中心に行う。試験の実施方法については担当教員の指示に従うこと。
イヤホン（有線・3.5mmミニプラグ）を持参することが望ましい。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業終了後には必ず復習をすること（60分） スケールやカデンツなどの鍵盤での基礎的な練習を日課として行うこと。
15回目に行うまとめの課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。
また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

- （教）鍵盤ソルフェージュ（昭和音楽大学）
- （参）授業の進行に応じて指定する。

科目名-クラス名

鍵盤ソルフェージュ①

E

曜日時限

担当教員

火 4時限

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	1~	通年	2	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

弾き歌い、伴奏づけ、移調奏などを鍵盤上で学修する。主要三和音を中心に、借用和音（副属七の和音）を学修する。授業はコードネームと和音記号で行う。ここでいう弾き歌いとは「両手による開離位置での伴奏づけを中心としたもの」を指し、伴奏づけとは「メロディーへの密集位置での伴奏づけ」を指す。移調奏なども年間を通じて積極的に行う。

授業では音楽教育用コンピューターシステム(ミュージック・ラボラトリー)を使用する。教員と学生が1対1、または教員対複数学生でのやりとりが可能であり、グループ授業でありながら、同時にシステム上

学修成果

弾き歌い、伴奏づけ、移調奏が鍵盤上で即興的に演奏できるようになる。また、グレード試験（3・4・5級程度）の対策になる。

授業展開と内容

- 第1回 テキストを使用して1年間の説明と授業開始。
- 第2回 テキストLevel1のNo.1~4を用いて、ハ長調（C dur）の主要三和音を用いた弾き歌い（メロディーを弾かずに、右手で和音、左手でベースを付ける形態）を体験してみる。また、固有和音、コードネームや和音記号の説明を行う。
- 第3回 テキストLevel1のNo.1~4を用いて、ハ長調（C dur）の属七〜I度の修得に努める。また、副三和音の説明を行い、II度〜属七〜I度の修得に努める。
- 第4回 テキストLevel1のNo.5~7を用いて、ヘ長調（F dur）、ト長調（G dur）の属七〜I度の修得に努める。また、副三和音が用いられた和音進行の修得に努める。
- 第5回 副教材①を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
- 第6回 テキストLevel1のNo.8~11を用いて、変ロ長調（B dur）、ニ長調（D dur）の属七〜I度の修得に努める。また、イ短調（a moll）についても体験してみる。
- 第7回 テキストLevel2のNo.1~3を用いて、ハ長調（C dur）、ト長調（G dur）の副三和音、ならびに副属七を加えた弾き歌いに取り組むことで、副属七についての理解に努める。また、ニ短調（d moll）における平行調からの和音の借用の理解に努める。
- 第8回 副教材②を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
- 第9回 テキストLevel2のNo.4~5を用いて、ハ長調（C dur）、ト長調（G dur）の副三和音、ならびに副属七を加えた弾き歌いに取り組んでみることで、平行調からの和音の借用やドッペルドミナントの修得に努める。
- 第10回 テキストLevel2のNo.6~7を用いて、ト長調（G dur）、ニ長調（D dur）の副三和音、ならびに副属七を加えた弾き歌いに取り組んでみることで、II度調からの和音の借用やドッペルドミナントの修得に努める。また、sus4から主和音への解決を味わい、修得に努める。
- 第11回 副教材③を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
- 第12回 テキストLevel2のNo.8~11を用いて、ホ短調（e moll）、ヘ長調（F dur）、変ロ長調（B dur）の副三和音、ならびに副属七を加えた弾き歌いに取り組んでみる。短調における減五短七和音の修得に努める。また、サブドミナントマイナーを味わい、修得に努める。
- 第13回 テキストLevel2のNo.12~14を用いて、ヘ長調（F dur）、ホ短調（e moll）、変ロ長調（B dur）の左手バス音を工夫することで転回形を用いた弾き歌いの修得に努める。
- 第14回 副教材④を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
- 第15回 前期のまとめ。
- 第16回 テキストLevel2のNo.15~16を用いて、ニ長調（D dur）、ロ短調（h moll）の課題に取り組み、短七和音の修得に努める。
- 第17回 テキストLevel2のNo.17~20を用いて、ハ長調（C dur）、ト長調（G dur）、ヘ長調（F dur）、ニ長調（D dur）の課題に取り組み、sus4から主和音への解決を味わい、修得に努める。
- 第18回 テキストLevel2のNo.21~22を用いて、ヘ長調（F dur）、ハ長調（C dur）の課題に取り組み、サブドミナントマイナーを味わい、修得に努める。また、減五短七和音の修得に努める。
- 第19回 副教材⑤を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
- 第20回 テキストLevel2のNo.23~24を用いて、ト短調（g moll）、変ロ長調（B dur）の課題に取り組み、減三和音の理解を深め、さらにII度〜属七〜I度の修得に努める。
- 第21回 テキストLevel2のNo.25~28を用いて、イ長調（A dur）、ハ短調（c moll）、ト短調（g moll）の課題に取り組み、前期に学んだことの復習、さらに長七和音の修得に努める。
- 第22回 テキストLevel2のNo.29~30を用いて、ニ長調（D dur）、ホ短調（e moll）の課題に取り組み、様々な伴奏リズムを体験し、修得に努める。さらにピカルディー終止の理解を深める。

- 第23回 副教材⑥を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
- 第24回 テキストLevel2のNo.31~32を用いて、二長調（D dur）、ト長調（G dur）の課題に取り組み、同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。
- 第25回 テキストLevel2のNo.33~34を用いて、二長調（D dur）の課題に取り組み、同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。
- 第26回 副教材⑦を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
- 第27回 テキストLevel2のNo.35~36を用いて、イ長調（A dur）、ニ短調（d moll）の課題に取り組み、同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。
- 第28回 テキストLevel2のNo.37~38を用いて、二長調（D dur）、ト短調（g moll）の課題に取り組み、同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。副属七の徹底、ドミナント→トニックの響き、及び転調による響きの変化を把握する。
- 第29回 副教材⑧を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
- 第30回 一年のまとめ 筆記で習熟度を確認する

履修上の注意

定期試験では、筆記試験で習熟度を確認、実技試験は弾き歌いを中心に行う。試験の実施方法については担当教員の指示に従うこと。
イヤホン（有線・3.5mmミニプラグ）を持参することが望ましい。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業終了後には必ず復習をすること（60分） スケールやカデンツなどの鍵盤での基礎的な練習を日課として行うこと。
15回目に行うまとめの課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。
また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

- （教）鍵盤ソルフェージュ（昭和音楽大学）
- （参）授業の進行に応じて指定する。

科目名－クラス名

聴音・視唱ソルフェージュ②

C

曜日時限

担当教員

木 3時限

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習	2～	通年	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音と視唱の訓練により、ソルフェージュ能力を養成する。

学修成果

"この授業では、聴音（書き取り）と視唱（歌うことを通して（1）音程、リズム、音階などの感覚、（2）読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成）をテーマとし、単旋律、高音部譜表2声、大譜表2声、4声体和声の書き取り及び視唱の中級程度の能力を身につけることができる。"

授業展開と内容

- 第1回 聴音と視唱の学修方法および授業ガイダンス
- 第2回 シンコーションとタイを多く含む長調、短調の単旋律聴音の導入、および視唱練習としてレガートに歌う練習を「トスティ50番」No.26を中心として行う
- 第3回 借用和音を多く含む多く含む大譜表の2声聴音の導入、およびレガートとメッツァヴォーチェに歌う練習を「トスティ50番」No.27を中心として行う
- 第4回 変化音を多く含む高音部譜表の2声聴音の導入、およびタイと三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.28を中心として行う
- 第5回 三和音、七の和音を中心とした4声体和声（開離）聴音の導入、およびタイとアクセントの視唱練習を「トスティ50番」No.29を中心として行う
- 第6回 一時的な転調を含む長調、短調の単旋律聴音の基礎練習、およびレガートなフレーズで歌う練習を「トスティ50番」No.30を中心として行う
- 第7回 借用和音を多く含む大譜表の2声聴音の基礎練習、および三連符と16分音符の視唱練習を「トスティ50番」No.31を中心として行う
- 第8回 高音部譜表の2声聴音の基礎練習、および六連符の視唱練習を「トスティ50番」No.32を中心として行う
- 第9回 4声体和声（開離）聴音の基礎練習、および反復音階の視唱練習を「トスティ50番」No.33を中心として行う
- 第10回 近親転調を含む長調、短調の単旋律聴音の応用練習、および長いフレーズで歌う練習を「トスティ50番」No.34を中心として行う
- 第11回 高音部譜表の2声聴音の応用練習、および軽やかなパッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.35を中心として行う
- 第12回 大譜表の2声聴音の応用練習、および付点と半音階の視唱練習を「トスティ50番」No.36を中心として行う
- 第13回 4声体和声（開離）聴音の応用練習、および修飾音の視唱練習を「トスティ50番」No.37を中心として行う
- 第14回 単旋律・2声・4声体和声（開離）の聴音、および「トスティ50番」No.26～No.37を復習する
- 第15回 前期授業内容による総合演習
- 第16回 前期で学修した内容を含む聴音、およびシンコーションの視唱練習を「トスティ50番」No.38を中心として行う
- 第17回 長調、短調の単旋律聴音（複雑なリズム・変化音・転調を含む）、およびフィオリトゥーラの視唱練習を「トスティ50番」No.39を中心として行う
- 第18回 転調を含む大譜表の2声聴音、および半音階とグルッペットによる視唱練習を「トスティ50番」No.40を中心として行う
- 第19回 高音部譜表の2声聴音（複雑なリズム・変化音による）、およびレチタティーヴォの視唱練習を「トスティ50番」No.41を中心として行う
- 第20回 ドッペルドミナントの諸和音を含む4声体和声（開離）聴音、およびカヴァティーナ風の視唱練習を「トスティ50番」No.42を中心として行う
- 第21回 遠隔調への転調を伴った長調、短調の単旋律聴音、およびスケールの練習を「トスティ50番」No.43を中心として視唱練習を行う
- 第22回 大譜表の2声聴音（複雑なリズム・変化音・転調を含む）、およびスケールと回音の視唱練習を「トスティ50番」No.44を中心として行う
- 第23回 高音部譜表の2声聴音（不規則なリズム、タイを含む）、およびマルカート・スタッカートの視唱練習を「トスティ50番」No.45を中心として行う
- 第24回 副属七の諸和音を多く含む4声体和声（開離）聴音、およびアルペッジョの視唱練習を「トスティ50番」No.46を中心として行う
- 第25回 長調、短調の単旋律聴音（五連符やタイ、遠隔調への転調を伴う）、およびトリルの視唱練習を「トスティ50番」No.47を中心として行う
- 第26回 大譜表の2声聴音（変拍子を含む）の総括的練習、および半音階の視唱練習を「トスティ50番」No.48を中心として行う
- 第27回 高音部譜表の2声聴音の総括的練習、および装飾的パッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.49を中心として行う
- 第28回 ナボリの六等の変化和音、副属七の諸和音を含めた4声体和声（開離）聴音、および歌とピアノの対話による視唱練習を「トスティ50番」No.50を中心として行う
- 第29回 総合的な内容を盛り込んだ聴音、および「トスティ50番」No.38～50を復習する
- 第30回 後期試験内容に即した演習

履修上の注意

クラス分けを行うので指定されたクラスで受講すること

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の予習、復習、反復練習を十分に行うこと。視唱は楽譜を見るだけでなく、きちんと声を出して練習すること。聴音は授業内で実習した課題を鍵盤楽器などを用いて復習すること（120分/週）。15回目に行う総合演習の課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

「トスティ50番」中声用 畑中良輔他（全音楽譜出版社）

科目名－クラス名

聴音・視唱ソルフェージュ②

D

曜日時限

木 3時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	
演習	2～	通年	2	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音と視唱の訓練により、ソルフェージュ能力を養成する。

学修成果

"この授業では、聴音（書き取り）と視唱（歌うことを通して（1）音程、リズム、音階などの感覚、（2）読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成）をテーマとし、単旋律、高音部譜表2声、大譜表2声、4声体和声の書き取り及び視唱の中級程度の能力を身につけることができる。"

授業展開と内容

第1回	聴音と視唱の学修方法および授業ガイダンス
第2回	シンコーペーションとタイを多く含む長調、短調の単旋律聴音の導入、および視唱練習としてレガートに歌う練習を「トスティ50番」No.26を中心として行う
第3回	借用和音を多く含む多く含む大譜表の2声聴音の導入、およびレガートとメッツァヴォーチェに歌う練習を「トスティ50番」No.27を中心として行う
第4回	変化音を多く含む高音部譜表の2声聴音の導入、およびタイと三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.28を中心として行う
第5回	三和音、七の和音を中心とした4声体和声（開離）聴音の導入、およびタイとアクセントの視唱練習を「トスティ50番」No.29を中心として行う
第6回	一時的な転調を含む長調、短調の単旋律聴音の基礎練習、およびレガートなフレーズで歌う練習を「トスティ50番」No.30を中心として行う
第7回	借用和音を多く含む大譜表の2声聴音の基礎練習、および三連符と16分音符の視唱練習を「トスティ50番」No.31を中心として行う
第8回	高音部譜表の2声聴音の基礎練習、および六連符の視唱練習を「トスティ50番」No.32を中心として行う
第9回	4声体和声（開離）聴音の基礎練習、および反復音階の視唱練習を「トスティ50番」No.33を中心として行う
第10回	近親転調を含む長調、短調の単旋律聴音の応用練習、および長いフレーズで歌う練習を「トスティ50番」No.34を中心として行う
第11回	高音部譜表の2声聴音の応用練習、および軽やかなパッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.35を中心として行う
第12回	大譜表の2声聴音の応用練習、および付点と半音階の視唱練習を「トスティ50番」No.36を中心として行う
第13回	4声体和声（開離）聴音の応用練習、および修飾音の視唱練習を「トスティ50番」No.37を中心として行う
第14回	単旋律・2声・4声体和声（開離）の聴音、および「トスティ50番」No.26～No.37を復習する
第15回	前期授業内容による総合演習
第16回	前期で学修した内容を含む聴音、およびシンコーペーションの視唱練習を「トスティ50番」No.38を中心として行う
第17回	長調、短調の単旋律聴音（複雑なリズム・変化音・転調を含む）、およびフィオリトゥーラの視唱練習を「トスティ50番」No.39を中心として行う
第18回	転調を含む大譜表の2声聴音、および半音階とグルッペットによる視唱練習を「トスティ50番」No.40を中心として行う
第19回	高音部譜表の2声聴音（複雑なリズム・変化音による）、およびレチタティーヴォの視唱練習を「トスティ50番」No.41を中心として行う
第20回	ドッペルドミナントの諸和音を含む4声体和声（開離）聴音、およびカヴァティーナ風の視唱練習を「トスティ50番」No.42を中心として行う
第21回	遠隔調への転調を伴った長調、短調の単旋律聴音、およびスケールの練習を「トスティ50番」No.43を中心として視唱練習を行う
第22回	大譜表の2声聴音（複雑なリズム・変化音・転調を含む）、およびスケールと回音の視唱練習を「トスティ50番」No.44を中心として行う
第23回	高音部譜表の2声聴音（不規則なリズム、タイを含む）、およびマルカート・スタッカートの視唱練習を「トスティ50番」No.45を中心として行う
第24回	副属七の諸和音を多く含む4声体和声（開離）聴音、およびアルペッジョの視唱練習を「トスティ50番」No.46を中心として行う
第25回	長調、短調の単旋律聴音（五連符やタイ、遠隔調への転調を伴う）、およびトリルの視唱練習を「トスティ50番」No.47を中心として行う
第26回	大譜表の2声聴音（変拍子を含む）の総括的練習、および半音階の視唱練習を「トスティ50番」No.48を中心として行う
第27回	高音部譜表の2声聴音の総括的練習、および装飾的パッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.49を中心として行う
第28回	ナポリの六等の変化和音、副属七の諸和音を含めた4声体和声（開離）聴音、および歌とピアノの対話による視唱練習を「トスティ50番」No.50を中心として行う
第29回	総合的な内容を盛り込んだ聴音、および「トスティ50番」No.38～50を復習する
第30回	後期試験内容に即した演習

履修上の注意

クラス分けを行うので指定されたクラスで受講すること

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の予習、復習、反復練習を十分に行うこと。視唱は楽譜を見るだけでなく、きちんと声を出して練習すること。聴音は授業内で実習した課題を鍵盤楽器などを用いて復習すること（120分/週）。15回目に行う総合演習の課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスをを行う。

教科書・参考書

「トスティ50番」中声用 畑中良輔他（全音楽譜出版社）

科目名－クラス名

聴音・視唱ソルフェージュ②

C

曜日時限

木 3時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	
演習	2～	通年	2	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音と視唱の訓練により、ソルフェージュ能力を養成する。

学修成果

"この授業では、聴音（書き取り）と視唱（歌うことを通して（1）音程、リズム、音階などの感覚、（2）読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成）をテーマとし、単旋律、高音部譜表2声、大譜表2声、4声体和声の書き取り及び視唱の中級程度の能力を身につけることができる。"

授業展開と内容

- 第1回 聴音と視唱の学修方法および授業ガイダンス
- 第2回 シンコーションとタイを多く含む長調、短調の単旋律聴音の導入、および視唱練習としてレガートに歌う練習を「トスティ50番」No.26を中心として行う
- 第3回 借用和音を多く含む多く含む大譜表の2声聴音の導入、およびレガートとメッツァヴォーチェに歌う練習を「トスティ50番」No.27を中心として行う
- 第4回 変化音を多く含む高音部譜表の2声聴音の導入、およびタイと三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.28を中心として行う
- 第5回 三和音、七の和音を中心とした4声体和声（開離）聴音の導入、およびタイとアクセントの視唱練習を「トスティ50番」No.29を中心として行う
- 第6回 一時的な転調を含む長調、短調の単旋律聴音の基礎練習、およびレガートなフレーズで歌う練習を「トスティ50番」No.30を中心として行う
- 第7回 借用和音を多く含む大譜表の2声聴音の基礎練習、および三連符と16分音符の視唱練習を「トスティ50番」No.31を中心として行う
- 第8回 高音部譜表の2声聴音の基礎練習、および六連符の視唱練習を「トスティ50番」No.32を中心として行う
- 第9回 4声体和声（開離）聴音の基礎練習、および反復音階の視唱練習を「トスティ50番」No.33を中心として行う
- 第10回 近親転調を含む長調、短調の単旋律聴音の応用練習、および長いフレーズで歌う練習を「トスティ50番」No.34を中心として行う
- 第11回 高音部譜表の2声聴音の応用練習、および軽やかなパッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.35を中心として行う
- 第12回 大譜表の2声聴音の応用練習、および付点と半音階の視唱練習を「トスティ50番」No.36を中心として行う
- 第13回 4声体和声（開離）聴音の応用練習、および修飾音の視唱練習を「トスティ50番」No.37を中心として行う
- 第14回 単旋律・2声・4声体和声（開離）の聴音、および「トスティ50番」No.26～No.37を復習する
- 第15回 前期授業内容による総合演習
- 第16回 前期で学修した内容を含む聴音、およびシンコーションの視唱練習を「トスティ50番」No.38を中心として行う
- 第17回 長調、短調の単旋律聴音（複雑なリズム・変化音・転調を含む）、およびフィオリトゥーラの視唱練習を「トスティ50番」No.39を中心として行う
- 第18回 転調を含む大譜表の2声聴音、および半音階とグルッペットによる視唱練習を「トスティ50番」No.40を中心として行う
- 第19回 高音部譜表の2声聴音（複雑なリズム・変化音による）、およびレチタティーヴォの視唱練習を「トスティ50番」No.41を中心として行う
- 第20回 ドブルドミナントの諸和音を含む4声体和声（開離）聴音、およびカヴァティーナ風の視唱練習を「トスティ50番」No.42を中心として行う
- 第21回 遠隔調への転調を伴った長調、短調の単旋律聴音、およびスケールの練習を「トスティ50番」No.43を中心として視唱練習を行う
- 第22回 大譜表の2声聴音（複雑なリズム・変化音・転調を含む）、およびスケールと回音の視唱練習を「トスティ50番」No.44を中心として行う
- 第23回 高音部譜表の2声聴音（不規則なリズム、タイを含む）、およびマルカート・スタッカートの視唱練習を「トスティ50番」No.45を中心として行う
- 第24回 副属七の諸和音を多く含む4声体和声（開離）聴音、およびアルペッジョの視唱練習を「トスティ50番」No.46を中心として行う
- 第25回 長調、短調の単旋律聴音（五連符やタイ、遠隔調への転調を伴う）、およびトリルの視唱練習を「トスティ50番」No.47を中心として行う
- 第26回 大譜表の2声聴音（変拍子を含む）の総括的練習、および半音階の視唱練習を「トスティ50番」No.48を中心として行う
- 第27回 高音部譜表の2声聴音の総括的練習、および装飾的パッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.49を中心として行う
- 第28回 ナボリの六等の変化和音、副属七の諸和音を含めた4声体和声（開離）聴音、および歌とピアノの対話による視唱練習を「トスティ50番」No.50を中心として行う
- 第29回 総合的な内容を盛り込んだ聴音、および「トスティ50番」No.38～50を復習する
- 第30回 後期試験内容に即した演習

履修上の注意

クラス分けを行うので指定されたクラスで受講すること

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の予習、復習、反復練習を十分に行うこと。視唱は楽譜を見るだけでなく、きちんと声を出して練習すること。聴音は授業内で実習した課題を鍵盤楽器などを用いて復習すること（120分/週）。15回目に行う総合演習の課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

「トスティ50番」中声用 畑中良輔他（全音楽譜出版社）

科目名－クラス名

聴音・視唱ソルフェージュ②

D

曜日時限

木 3時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				定期試験				授業内小テスト		
演習	2～	通年	2	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音と視唱の訓練により、ソルフェージュ能力を養成する。

学修成果

"この授業では、聴音（書き取り）と視唱（歌うことを通して（1）音程、リズム、音階などの感覚、（2）読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成）をテーマとし、単旋律、高音部譜表2声、大譜表2声、4声体和声の書き取り及び視唱の中級程度の能力を身につけることができる。"

授業展開と内容

- 第1回 聴音と視唱の学修方法および授業ガイダンス
- 第2回 シンコーションとタイを多く含む長調、短調の単旋律聴音の導入、および視唱練習としてレガートに歌う練習を「トスティ50番」No.26を中心として行う
- 第3回 借用和音を多く含む多く含む大譜表の2声聴音の導入、およびレガートとメッツァヴォーチェに歌う練習を「トスティ50番」No.27を中心として行う
- 第4回 変化音を多く含む高音部譜表の2声聴音の導入、およびタイと三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.28を中心として行う
- 第5回 三和音、七の和音を中心とした4声体和声（開離）聴音の導入、およびタイとアクセントの視唱練習を「トスティ50番」No.29を中心として行う
- 第6回 一時的な転調を含む長調、短調の単旋律聴音の基礎練習、およびレガートなフレーズで歌う練習を「トスティ50番」No.30を中心として行う
- 第7回 借用和音を多く含む大譜表の2声聴音の基礎練習、および三連符と16分音符の視唱練習を「トスティ50番」No.31を中心として行う
- 第8回 高音部譜表の2声聴音の基礎練習、および六連符の視唱練習を「トスティ50番」No.32を中心として行う
- 第9回 4声体和声（開離）聴音の基礎練習、および反復音階の視唱練習を「トスティ50番」No.33を中心として行う
- 第10回 近親転調を含む長調、短調の単旋律聴音の応用練習、および長いフレーズで歌う練習を「トスティ50番」No.34を中心として行う
- 第11回 高音部譜表の2声聴音の応用練習、および軽やかなパッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.35を中心として行う
- 第12回 大譜表の2声聴音の応用練習、および付点と半音階の視唱練習を「トスティ50番」No.36を中心として行う
- 第13回 4声体和声（開離）聴音の応用練習、および修飾音の視唱練習を「トスティ50番」No.37を中心として行う
- 第14回 単旋律・2声・4声体和声（開離）の聴音、および「トスティ50番」No.26～No.37を復習する
- 第15回 前期授業内容による総合演習
- 第16回 前期で学修した内容を含む聴音、およびシンコーションの視唱練習を「トスティ50番」No.38を中心として行う
- 第17回 長調、短調の単旋律聴音（複雑なリズム・変化音・転調を含む）、およびフィオリトゥーラの視唱練習を「トスティ50番」No.39を中心として行う
- 第18回 転調を含む大譜表の2声聴音、および半音階とグルッペットによる視唱練習を「トスティ50番」No.40を中心として行う
- 第19回 高音部譜表の2声聴音（複雑なリズム・変化音による）、およびレチタティーヴォの視唱練習を「トスティ50番」No.41を中心として行う
- 第20回 ドブルドミナントの諸和音を含む4声体和声（開離）聴音、およびカヴァティーナ風の視唱練習を「トスティ50番」No.42を中心として行う
- 第21回 遠隔調への転調を伴った長調、短調の単旋律聴音、およびスケールの練習を「トスティ50番」No.43を中心として視唱練習を行う
- 第22回 大譜表の2声聴音（複雑なリズム・変化音・転調を含む）、およびスケールと回音の視唱練習を「トスティ50番」No.44を中心として行う
- 第23回 高音部譜表の2声聴音（不規則なリズム、タイを含む）、およびマルカート・スタッカートの視唱練習を「トスティ50番」No.45を中心として行う
- 第24回 副属七の諸和音を多く含む4声体和声（開離）聴音、およびアルペッジョの視唱練習を「トスティ50番」No.46を中心として行う
- 第25回 長調、短調の単旋律聴音（五連符やタイ、遠隔調への転調を伴う）、およびトリルの視唱練習を「トスティ50番」No.47を中心として行う
- 第26回 大譜表の2声聴音（変拍子を含む）の総括的練習、および半音階の視唱練習を「トスティ50番」No.48を中心として行う
- 第27回 高音部譜表の2声聴音の総括的練習、および装飾的パッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.49を中心として行う
- 第28回 ナボリの六等の変化和音、副属七の諸和音を含めた4声体和声（開離）聴音、および歌とピアノの対話による視唱練習を「トスティ50番」No.50を中心として行う
- 第29回 総合的な内容を盛り込んだ聴音、および「トスティ50番」No.38～50を復習する
- 第30回 後期試験内容に即した演習

履修上の注意

クラス分けを行うので指定されたクラスで受講すること

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の予習、復習、反復練習を十分に行うこと。視唱は楽譜を見るだけでなく、きちんと声を出して練習すること。聴音は授業内で実習した課題を鍵盤楽器などを用いて復習すること（120分/週）。15回目に行う総合演習の課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

「トスティ50番」中声用 畑中良輔他（全音楽譜出版社）

科目名－クラス名

サウンドクリエイト①

A

曜日時限

水 4時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
講義	1～	通年	4	評価割合	0	50	50	0	0	100

教育到達目標と概要

コンピュータを用いた音楽制作を通して、Macintoshの基本操作からDTMの基本概念を学び、その上でポピュラー音楽において主に用いられる編成の楽器やシンセサイザーの基本的な音作りなど、音楽制作の仕組みを学びます。また、Finaleの知識と技術を修得し、自ら楽譜制作できる能力を養います。

学修成果

コンピュータを活用した現代の音楽制作の知識と技術を修得し、各自の音楽表現に活用することができる。

授業展開と内容

- 第1回 ガイダンス：機材使用方法、名称説明
- 第2回 Macintoshの基本操作：Finderでのファイル管理、アプリケーションの起動、終了
- 第3回 Logic Proの基本操作：新規作成、保存方法
- 第4回 Logic Proの基本操作：トラックの追加、音色選択、変更
- 第5回 Logic Pro基本操作：レコーディング操作とリージョンの概念
- 第6回 Finaleの基本操作：新規作成、保存方法
- 第7回 Finaleを用いた簡単な譜面の作成：高速ステップ入力の方法。
- 第8回 Finaleを用いた簡単な譜面の作成：異名同音、タイの入力、小節線、レイアウト、歌詞
- 第9回 Logic Pro応用操作：積極的な音色作り。プラグインの活用、音源の知識、シンセサイザーの基礎。
- 第10回 Logic Pro応用操作：オートメーション
- 第11回 Logic Pro応用操作：EQ、コンプ、ミックス
- 第12回 Finaleを用いたより高度な譜面の作成：コードネーム、リハーサルマーク
- 第13回 Finaleを用いたより高度な譜面の作成：3連符、道具箱ツール
- 第14回 Finaleを用いたより高度な譜面の作成：特殊符頭、特殊符尾
- 第15回 提出作品についてのまとめ
- 第16回 Logic Proオーディオ録音：概要、基本
- 第17回 Logic Proオーディオ録音：応用
- 第18回 Logic Proデータ編集：ノート情報の表現、コントロールの表現
- 第19回 Logic Proデータ編集：MIDIデータのオーディオ化
- 第20回 Finaleを用いたより高度な譜面の作成：Dr.譜の追加、弱起、調号変更
- 第21回 Finaleを用いたより高度な譜面の作成：リズム表記、発想記号
- 第22回 Finaleを用いたより高度な譜面の作成：レイアウト、印刷
- 第23回 Finaleの高度な操作：ショートカットの活用
- 第24回 Logic Proエフェクト：イコライザー、フィルター
- 第25回 Logic Proエフェクト：リバーブ、ディレイ
- 第26回 Logic Proミキシング：定位、ボリュームデータ
- 第27回 Logic Pro：パワンスとファイル形式の違い
- 第28回 Logic Pro：音源の共有方法、アップロード
- 第29回 Finale：提出作品についてのまとめ
- 第30回 Logic Pro：提出作品についてのまとめ

履修上の注意

積極的に授業に臨むこと。時間厳守。

■ **授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

学んだ知識は常に応用する事を心がけること。授業時間内に課題を完成させることは困難なので、放課後の教室開放を利用し自学修すること。毎回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。授業内で個々に指導する時間を設けて適宜フィードバックを行う。

■ **教科書・参考書**

必要に応じて指示を与える。

科目名－クラス名

サウンドクリエイト①

A

曜日時限

水 4時限

担当教員

森 篤史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
講義	1～	通年	4	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	0	50	50	0	0
									100

教育到達目標と概要

コンピュータを用いた音楽制作を通して、Macintoshの基本操作からDTMの基本概念を学び、その上でポピュラー音楽において主に用いられる編成の楽器やシンセサイザーの基本的な音作りなど、音楽制作の仕組みを学びます。また、Finaleの知識と技術を修得し、自ら楽譜制作できる能力を養います。

学修成果

コンピュータを活用した現代の音楽制作の知識と技術を修得し、各自の音楽表現に活用することができる。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス
第2回	音楽で使われるメディアの知識
第3回	Macintoshの基本操作
第4回	Logic Pro基本操作：参考データをもとに
第5回	Logic Pro基本操作：トラックの追加、音色選択、変更
第6回	Logic Pro基本操作：レコーディング操作と記録
第7回	データ作成の概要
第8回	音色作りについて：音源の知識 発振 フィルター アンブ
第9回	減算方式（アナログシンセサイザー）について
第10回	FM音源について
第11回	上記内容を含む楽曲データの作成
第12回	サンプリング：概要、基本
第13回	サンプリング：オリジナル音色作成について
第14回	上記内容を含む楽曲データの作成
第15回	提出作品についてのまとめ
第16回	オーディオ録音：概要、基本
第17回	オーディオ録音：応用
第18回	上記内容を含む楽曲データの作成
第19回	データ編集：ノート情報の表現、コントロールの表現
第20回	データ編集：MIDIデータのオーディオ化
第21回	上記内容を含む楽曲データの作成
第22回	エフェクト：コンプ、リミッター
第23回	エフェクト：イコライザー、フィルター
第24回	エフェクト：リバーブ、ディレイ
第25回	ミキシング：定位、ボリュームデータ
第26回	上記内容を含む楽曲データの作成
第27回	マスタリング
第28回	バウンス
第29回	CDライティングまたはデータ化
第30回	まとめ

履修上の注意

積極的に授業に臨むこと。時間厳守。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

学んだ知識は常に応用する事を心がけること。授業時間内に課題を完成させることは困難なので、放課後の教室開放を利用し自学修すること。毎回の講義に臨むにあたり、4時間の自学修を必要とします。授業内で個々に指導する時間を設けて適宜フィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

必要に応じて指示を与える。

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：1662 教員名：森 篤史

1) 評価結果に対する所見

概ね良い結果が得られた。自学修、予習復習のスコアが例年より向上しており、励みとなる。一方、自由記述が少なく、要望や意見が少なく残念である。アンケート実施の際に自由記述の記載について、アナウンスを行うなどの方策を取りたい。

2) 要望への対応・改善方策

これといった要望などはなかったが、聴音の学修方法がわからないという自由記述が一件あった。自学修のための課題を Teams にアップしており、活用方法などを引き続きアナウンスをしていく。また、声が小さいとの指摘があったため、気をつけていきたい。

3) 今後の課題

1限の出席率が悪く、改善したいのだがなかなか難しい。

Teams を活用した課題の配布を様々な授業で行なっており、効果を確認し、学生の声に耳を傾けながら日々改善を行なっていきたい。また、Forms を使った小テストを頻繁に行なっており、学修効果の検証材料にもなるため、指導法改善の一策とするべく、今後も引き続き活用を続けていきたい。

欠席した学生が授業内容を振り返ることができるよう、毎回の板書や紹介した資料などを Teams に投稿しているが、どれほど活用されているのか気になるところである。

以 上